

# 香川県埋蔵文化財センター年報

平成 28 年度

2018. 3

香川県埋蔵文化財センター

# はじめに

香川県埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の調査及び研究を行うとともに、その保存と活用を図り、県民の文化的向上に資するため、昭和 62 年 11 月 1 日に設置されました。

平成 28 年度は、国道 11 号大内白鳥バイパス建設、裁判所施設改築、国道 438 号道路改築、県道改築工事、ため池改修に伴う埋蔵文化財の発掘調査及び過年度発掘調査の整理、報告書刊行をはじめ、出土品の保管・整理、讃岐国府跡探索事業などを実施しました。そして、これらの調査や整理作業によって得られた多くの成果をもとに、展示や広報誌の刊行、体験講座、考古学講座などの普及啓発業務を行い、埋蔵文化財の保護意識の向上に努めました。

本書は、これら平成 28 年度に実施した事業の内容をまとめたものです。さらに巻末には、職員の個人研究の成果について掲載しました。本書が地域の歴史や文化の理解への一助になれば幸いです。

最後になりましたが、ご指導、ご協力をいただいた関係各位にお礼を申し上げますとともに、今後とも当センターの活動に皆様の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 30 年 3 月

香川県埋蔵文化財センター  
所 長 増 田 宏



# 目 次

はじめに

I	組織・施設・決算	1
1	香川県埋蔵文化財センターの組織	1
2	施設の概要	2
3	決算の状況	3
II	事業概要	4
1	埋蔵文化財調査事業	4
	三殿北遺跡	6
	神野遺跡	10
	横井南原遺跡	13
	岸の上遺跡	15
	丸亀城跡（大手町地区）	20
	中又北遺跡	24
	ぎょくだい遺跡	34
2	普及・啓発事業	36
	(1) 展示	36
	(2) 現地説明会・地元説明会	36
	(3) 講師の派遣	36
	(4) 子どもミュージアム	37
	(5) 発掘体験講座	37
	(6) 考古学講座	37
	(7) 文化ボランティア活動	37
	(8) 新聞記事掲載	38
	(9) 資料の貸出・利用	38
	(10) 職場体験学習・インターンシップ	38
	(11) 刊行物	38
	(12) ホームページ	38
	(13) 資料の寄贈	38
3	讃岐国府跡探索事業	39
III	讃岐国府跡第34次調査成果の概要	41
IV	分析報告	49
	太田原高州遺跡出土ガラス玉の材質調査	49
V	調査研究	52
	【資料紹介】香川県内出土の有舌尖頭器について2	52
	【資料紹介】手島沖海揚がりの南九州系弥生土器について	53
	香川県内出土の埴輪	59
	讃岐古代集落の類型化の試み1	73

# 挿 図 目 次

第 1 図 発掘調査遺跡位置図…………… 5	遺構配置図…………… 45
三殿北遺跡	第 25 図 開法寺東方地区
第 2 図 遺跡位置図 (1/25,000) …… 6	遺構変遷図 1 …… 46
第 3 図 遺構配置図及び遺構概念図… 7	第 26 図 開法寺東方地区
神野遺跡	遺構変遷図 2 …… 47
第 4 図 遺跡位置図 (1/25,000) …… 10	分析報告
第 5 図 調査区割図及び遺構平面図… 12	第 27 図 化学組成による
横井南原遺跡	ソーダガラスの細分… 50
第 6 図 遺跡位置図 (1/25,000) …… 13	調査研究
第 7 図 遺構平面図…………… 14	第 28 図 有舌尖頭器実測図…………… 52
岸の上遺跡	第 29 図 関連遺跡地図…………… 53
第 8 図 遺跡位置図 (1/25,000) …… 13	第 30 図 手島沖海揚がり
第 9 図 調査区割図及び西壁断面図… 18	南九州系土器 実測図… 54
第 10 図 全体平面図…………… 19	第 31 図 南方遺跡 南九州系土器… 55
丸亀城跡 (大手町地区)	第 32 図 文京遺跡 南九州系土器… 56
第 11 図 遺跡位置図 (1/25,000) …… 20	第 33 図 田村遺跡群 南九州系土器 57
第 12 図 遺構平面図…………… 23	第 34 図 大亀古墳群出土
中又北遺跡	円筒埴輪実測図 1 …… 61
第 13 図 遺跡位置図 (1/25,000) …… 24	第 35 図 大亀古墳群出土
第 14 図 遺跡周辺地形分類図…………… 25	円筒埴輪実測図 2 …… 62
第 15 図 遺構配置図…………… 26	第 36 図 大亀古墳群出土
第 16 図 2c 区 SR2001 (低地帯)	円筒埴輪実測図 3 …… 63
大畔断面図及び写真… 27	第 37 図 出土地不明埴輪実測図 1 …… 64
第 17 図 遺構変遷図 1 …… 28	第 38 図 出土地不明埴輪実測図 2 …… 65
第 18 図 遺構変遷図 2 …… 29	第 39 図 坂田廃寺他出土
第 19 図 遺構変遷図 3 …… 30	円筒埴輪実測図… 66
ぎょくだい遺跡	第 40 図 田尾茶臼山古墳他
第 20 図 遺跡位置図 (1/25,000) …… 34	出土埴輪実測図… 67
第 21 図 調査区平面図…………… 34	第 41 図 神崎八幡山古墳他
讃岐国府跡	出土埴輪実測図… 68
第 22 図 讃岐国府跡における既往の	第 42 図 本村古墳出土埴輪実測図… 69
調査地と地形…………… 43	第 43 図 1 類の諸例…………… 75
第 23 図 開法寺東方地区周辺の	第 44 図 2 A 類の諸例…………… 76
調査区設定状況…………… 44	第 45 図 2 B 類の諸例…………… 77
第 24 図 今年度調査区 (第 34 次)	第 46 図 3 類の諸例 (その 1) …… 78

第 47 図	3 類の諸例 (その 2) …… 79	第 53 図	8 類の諸例 (その 2) …… 85
第 48 図	4 類の諸例 …… 80	第 54 図	遺跡毎の各類型の消長と 遺構密度 …… 86
第 49 図	5 類の諸例 …… 81	第 55 図	県内の古代の建物の 柱間と棟数 …… 87
第 50 図	5 類 (特殊) と 5 類と 他類型の組み合わせ諸例 …… 82	第 56 図	各類型の消長と影響関係 …… 87
第 51 図	6・7 類の諸例 …… 83	第 57 図	7 類と中世方形館の比較 …… 89
第 52 図	8 類の諸例 (その 1) …… 84		

## 写真目次

### 三殿北遺跡

写真 1	平安時代以降溝完掘状況 …… 8
写真 2	弥生時代旧河道完掘状況 …… 9
写真 3	平安時代旧河道完掘状況 …… 9
写真 4	SX3001 遺物出土状況 …… 9
写真 5	SX3001 出土墨書土器 …… 9

### 神野遺跡

写真 6	1 区全景・2 区全景 …… 11
写真 7	2 区 SF2001 床面 炭化物検出状況 …… 11
写真 8	2 区 SF2001 床面確認状況 …… 11

### 横井南原遺跡

写真 9	SD1001 全景 …… 13
写真 10	SD1001 断面 …… 13

### 岸の上遺跡

写真 11	SH9003 竈 …… 15
写真 12	出土した玉類 …… 16
写真 13	正方位建物 …… 16
写真 14	南海道側溝 …… 17

### 丸亀城跡 (大手町地区)

写真 15	近代建物 …… 20
写真 16	2 区完掘状況 …… 21
写真 17	1 区区画溝断面 …… 21
写真 18	2 区区画施設周辺 …… 21
写真 19	3 区土師質土器出土状況 …… 22

### 中又北遺跡

写真 20	弥生時代前期～古墳時代初頭 大型灌漑水路 …… 33
写真 21	建物 2 (12 世紀) 全景 …… 33
写真 22	SR2001 全景 …… 33
写真 23	SR2001 上層中層 水田疑似畦畔 …… 33
写真 24	SR2001 上層下層 水田疑似畦畔 …… 33
写真 25	SR2001 中層出土縄文時代 晩期中葉の堅果類 …… 33
写真 26	SR2001 (縄文時代晩期前葉) 完掘状況 …… 33

### ぎょくだい遺跡

写真 27	調査区 1 完掘状況 …… 35
写真 28	SR1005 土師質土器 検出状況 …… 35

### 讃岐国府跡

写真 29	34-2 区北半部東西主軸の 建物と遮蔽施設 …… 48
写真 30	34-3 区 南北主軸の建物 …… 48

### 分析報告

写真 31	ガラス玉の顕微鏡写真 …… 51
-------	------------------

### 調査研究

写真 32	手島沖海揚がり 南九州系土器 …… 54
-------	-------------------------

## 表 目 次

組織・施設・決算	第16表 発掘体験講座……………37
第1表 職員一覧……………2	第17表 考古学講座一覧……………37
第2表 発掘調査決算……………3	第18表 資料貸出・利用一覧……………38
第3表 整理・報告決算……………3	第19表 職場体験学習・
第4表 管理運営費等決算……………3	インターンシップ一覧……………38
事業概要	第20表 地域との交流一覧……………39
第5表 発掘調査遺跡一覧……………4	第21表 情報発信一覧……………39
第6表 遺跡の概要一覧……………4	第22表 関連行事一覧……………39
第7表 整理・報告遺跡一覧……………5	分析報告
第8表 刊行報告書一覧……………5	第23表 蛍光X線分析結果……………51
第9表 展示一覧……………36	調査研究
第10表 入館者数一覧……………36	第24表 有舌尖頭器観察表……………52
第11表 センター外展示一覧……………36	第25表 須恵器観察表……………70
第12表 現地説明会・	第26表 円筒・朝顔形埴輪
地元説明会一覧……………36	観察表1……………71
第13表 体験講座への講師派遣一覧……………36	第27表 円筒・朝顔形埴輪
第14表 講演等への講師派遣一覧……………37	観察表2……………72
第15表 子どもミュージアム	第28表 形象埴輪等観察表……………72
実施事業一覧……………37	

(注)

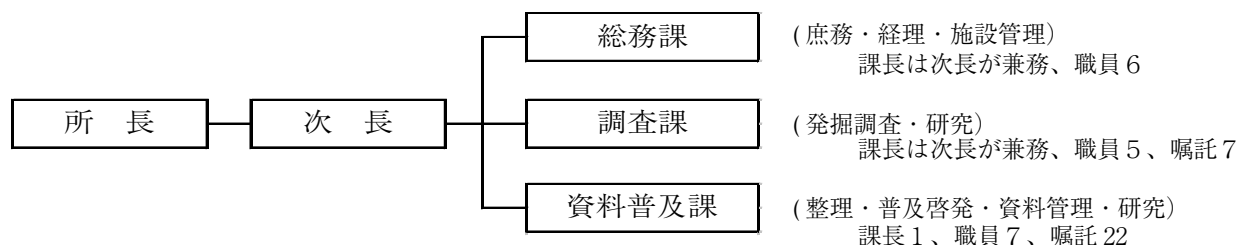
- 1 本書で用いる座標系は世界測地系（国土座標第Ⅳ系）で、標高は東京湾平均海水面を基準とした。
- 2 遺構は次の略号により表示した。
 

SH 竪穴建物	SB 掘立柱建物	SP 柱穴・小穴	SK 土坑	SE 井戸	SD 溝
SR 旧河道	SX 性格不明遺構	SF 竈			
- 3 遺跡位置図は国土地理院地形図（1/25,000）に遺跡位置を追記して掲載した。

## I 組織・施設・決算

## 1 香川県埋蔵文化財センターの組織

## (1) 組織



## (2) 職員

平成 28 年 4 月 1 日現在

所 属	職 名	氏 名
所 長		増 田 宏
次 長		森 格 也
総 務 課	課 長 ( 兼 務 )	森 格 也
	副 主 幹	斎 藤 政 好
	主 任	寺 岡 仁 美
	主 任	高 木 秀 哉
	主 任	丸 尾 麻 知 子
	主 任	西 谷 敬 司
	主 任	岩 崎 昌 平
調 査 課	課 長 ( 兼 務 )	森 格 也
	主任文化財専門員	森 下 英 治
	主任文化財専門員	信 里 芳 紀
	技 師	真 鍋 貴 匡
	技 師	竹 内 裕 貴
	技 師	大 山 裕 矢
	嘱 託	藤 井 菜 穂 子
	嘱 託	脇 恵
	嘱 託	今 井 由 佳
	嘱 託	井 上 加 奈 子
	嘱 託	名 倉 美 保
	嘱 託	徳 永 貴 美
	嘱 託	角 野 勲

資料普及課	課 長	古野 徳久
	主任文化財専門員	木下 晴一
	主任文化財専門員	蔵本 晋司
	主任文化財専門員	松本 和彦
	文化財専門員	森下 友子
	文化財専門員	山元 素子
	文化財専門員	小野 秀幸
	主任	西村 尋文
	嘱託	大林 真沙代
	嘱託	西本 智子
	嘱託	猪木原 美恵子
	嘱託	土居 乃里子
	嘱託	牧野 香織
	嘱託	甲斐 美智子
	嘱託	西山 佳代子
	嘱託	市川 孝子
	嘱託	山地 真理子
	嘱託	葛西 薫
	嘱託	高橋 千恵
	嘱託	森 后代
	嘱託	原 節子
	嘱託	竹村 恵子
	嘱託	合田 和子
	嘱託	川井 佐織
	嘱託	森國 愛子
嘱託	正本 由希子	
嘱託	岡本 光代	
嘱託	青屋 真理	
嘱託	竹内 悦子	
嘱託	北濱 敦子	

第 1 表 職員一覧

## 2 施設の概要

- (1) 所在地 香川県坂出市府中町字南谷 5001-4
- (2) 敷地面積 11,049.23㎡
- (3) 建物構造・延床面積
- ①本 館 鉄筋コンクリート造・2階建 1,362.23㎡  
(一部鉄骨造・平屋建)

②分館	軽量鉄骨造・2階建	337.35㎡
③第1収蔵庫	鉄骨造・2階建	1,525.32㎡
④第2収蔵庫	鉄骨造・3階建	2,040.33㎡
⑤車庫	鉄骨造・平屋建	29.97㎡
⑥自転車置場	鉄骨造・平屋建	25.00㎡

### 3 決算の状況

(単位：千円)

原因者	遺跡名	決算
国土交通省	三殿北遺跡	34,678
	神野遺跡	22,998
最高裁判所	丸亀城跡(大手町地区)	25,873
道路課	中又北遺跡	12,648
	岸の上遺跡	62,208
	横井南原遺跡	1,012
土地改良課	ぎょくだい遺跡	3,701

※職員人件費は除く。

#### 第2表 発掘調査決算

(単位：千円)

原因者	遺跡名	決算
国土交通省	城泉遺跡	17,564
	誉水中筋遺跡	1,092
	田中遺跡	430
道路課	多肥宮尻遺跡	21,629
	多肥松林遺跡	12,441
	須田・中尾瀬遺跡、尾の上遺跡	15,143
	太田原高州遺跡	556
	住屋遺跡	535
	川北遺跡	87
	北岸南遺跡	303
	本村中遺跡	589
	高校教育課	蒲生遺跡
保健体育課	平池南遺跡	4,841
警察本部	高松城跡	11,989
	汲仏遺跡	7,423

※職員人件費は除く。

#### 第3表 整理・報告決算

(単位：千円)

事業名	決算
管理運営費等	4,187
職員給与費	143,555
讃岐国府跡調査事業	12,666
合計	160,408

#### 第4表 管理運営費等決算

## II 事業概要

### 1 埋蔵文化財調査事業

発掘調査を分掌する調査課では調査班 3 班を編成し、国道バイパス建設、国道改良、高松地家裁丸亀支部庁舎新営工事、県道整備、県所管国道整備、ため池改修に伴い計 7 遺跡の発掘調査を行った。

一方、報告書作成を分掌する資料普及課では整理班 4 班を編成し、国道バイパス建設、県道整備、陸上競技場整備、統合新設高校建設、警察署・機動隊舎建設に伴う 9 遺跡の整理及び 8 冊の報告書の刊行を行った。

原因者	事業名	遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)	調査期間
国土交通省	国道 11 号大内白鳥バイパス	三殿北遺跡	東かがわ市三殿	1,919	10 月～1 月
	国道 11 号津田交番前改良	神野遺跡	さぬき市津田町津田	653	7 月～9 月
最高裁	高松地家裁丸亀支部庁舎新営	丸亀城跡 (大手町地区)	丸亀市大手町	784	6 月～10 月
道路課	多度津丸亀線	中又北遺跡	多度津町道福寺	1,135	4 月～6 月
	国道 438 号	岸の上遺跡	丸亀市飯山町	2,110	4 月～3 月
	円座香南線	横井南原遺跡	高松市香南町横井	394	1 月
土地改良課	大規模ため池耐震改修	ぎょくだい遺跡	三豊市豊中市比地大	226	11 月～2 月
合計				7,221	

第 5 表 発掘調査遺跡一覧

遺跡名	遺跡の概要	主な遺構・遺物
三殿北遺跡	弥生時代～近世の遺跡	弥生時代中期～後期の旧河道、平安時代の土坑?・溝・旧河道 土器、木製品、金属器等、「上井」墨書土器、斎申?、硯、土馬、緑釉陶器
神野遺跡	弥生時代及び近世～近代の遺跡	近世以降の砂糖竈 2 基 弥生土器・近世以降陶磁器
丸亀城跡 (大手町地区)	近世の武家屋敷跡、近代以降の帝国陸軍歩兵第 12 聯隊基地跡	柱穴、土坑、石組み井戸、溝 土師質土器、陶磁器、瓦
中又北遺跡	縄文晩期から埋没し、弥生時代に水田化 (疑似畦畔) する旧河道、弥生時代の灌溉水路	溝、旧河道 縄文土器、弥生土器、各種石器、木製刳物容器、堅果類
岸の上遺跡	古墳時代後期～8 世紀前半の建物群、7 世紀末～10 世紀の南海道側溝	掘立柱建物、側柱建物、総柱建物、堅穴建物、溝 土師器、須恵器、石器 (石鏃等)、瓦、玉類、鍛冶関連遺物
横井南原遺跡	9 世紀頃の柱穴・溝を伴う集落縁辺部	柱穴、溝 土師器、須恵器
ぎょくだい遺跡	中世後半以降の遺跡 (柱穴、旧河道)	柱穴、旧河道 古代の瓦片、中世の土師質土器、青磁

第 6 表 遺跡の概要一覧

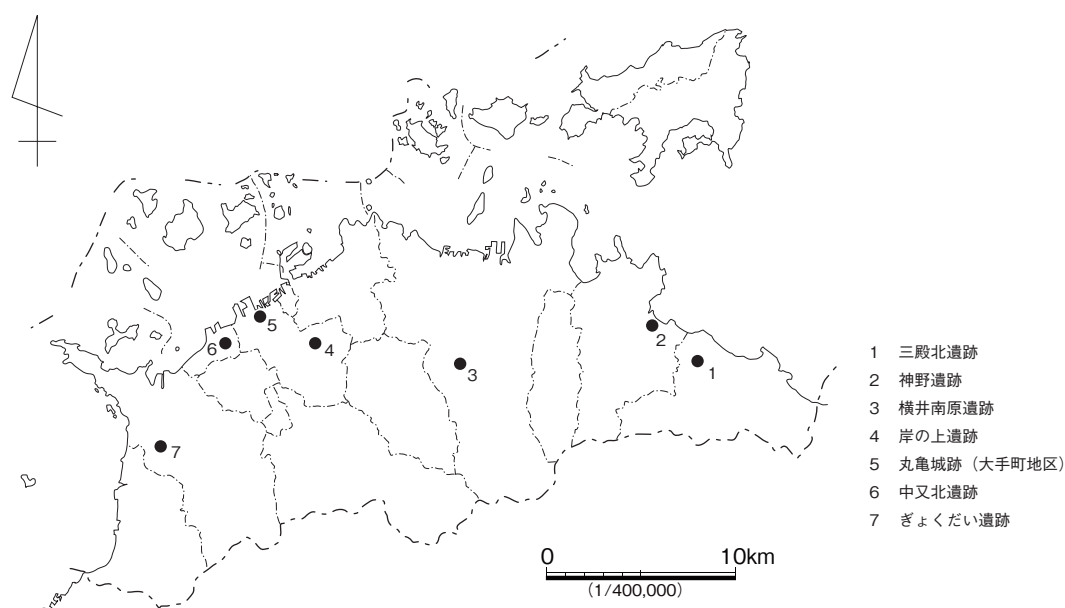


原因者	遺跡名	所在地	整理期間
国土交通省	城泉遺跡	東かがわ市白鳥	7月～1月
国土交通省	誉水中筋遺跡	東かがわ市中筋	平成27年度
国土交通省	田中遺跡	東かがわ市白鳥	平成27年度
道路課	多肥宮尻遺跡	高松市多肥上町	4月～7月、12月～3月
道路課	多肥松林遺跡	高松市多肥上町	10月～3月
道路課	須田・中尾瀬遺跡	三豊市詫間町詫間	4月～9月
道路課	尾の上遺跡	三豊市詫間町詫間	4月～9月
道路課	太田原高州遺跡	高松市太田上町	平成27年度
道路課	住屋遺跡	東かがわ市川東	平成27年度
道路課	川北遺跡	東かがわ市小海	平成26年度
道路課	北岸南遺跡	丸亀市飯山町	平成27年度
道路課	本村中遺跡	三豊市詫間町詫間	平成27年度
保健体育課	平池南遺跡	丸亀市金倉町	4月～11月
高校教育課	蒲生遺跡	小豆島町蒲生	4月～6月
警察本部	高松城跡	高松市西内町	8月～11月
警察本部	汲仏遺跡	高松市多肥上町	12月～3月

第7表 整理・報告遺跡一覧

書名
国道11号大内白鳥バイパス改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 誉水中筋遺跡
国道11号大内白鳥バイパス改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第3冊 田中遺跡
国道438号道路改築事業（飯山工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第5冊 北岸南遺跡
県道紫雲出山線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 本村中遺跡
県道太田上町志度線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 太田原高州遺跡2
県道白鳥引田線及び大内白鳥インター線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 川北遺跡・住屋遺跡
小豆地域県立学校再編整備事業（小豆地区統合校）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 蒲生遺跡
地震対策ため池防災工事（宮池）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 ぎょくだい遺跡
香川県埋蔵文化財センター年報 平成27年度

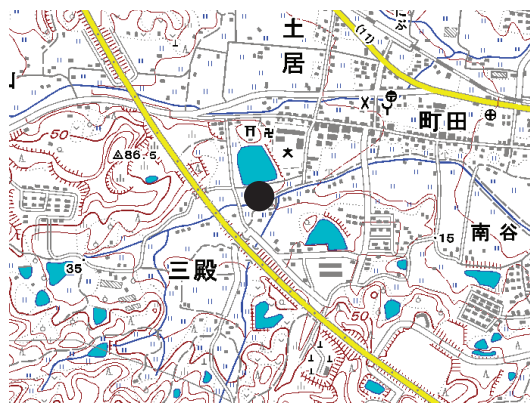
第8表 刊行報告書一覧



第1図 発掘調査遺跡位置図

みどのきたいせき  
三殿北遺跡

本遺跡は東かがわ市三殿に所在する弥生時代から近世にかけての遺跡である。遺跡周辺の地形を巨視的に見ると、北側に北山が、西側に田面峠が、南側に那智山が、東に大内平野がそれぞれ認められる。やや細かい視点で見ると、那智山の北麓に開削された番屋川とその支流により形成された、小規模な谷が合流して形成された谷底平野の出口に相当する。後世の地形改変により詳細な地形は不明であるが、南にある番屋川へ向けてやや急な勾配で傾斜する地形である。



第2図 遺跡位置図 (1 / 25,000)

(国土地理院 1/25,000 地形図「三本松」の一部を加工して利用)

周辺には 100 m 南方に中世から近世にかけての集落跡である三殿出口遺跡があるほか、400 m 東方に平成 26～27 年度に調査を行った弥生時代から中世にかけての遺構・遺物を検出した内間遺跡が、600 m 東方には弥生時代の遺物が出土した土居遺跡などが認められる。また、700 m 北西には南海道及びそれに関連する古代の建物跡などが検出された坪井遺跡が認められる。

遺跡の堆積状況や遺構の埋没状況は、基本的に遺構のベースとなる土を含め、番屋川により形成される沖積層で、粘土から砂礫までバラエティに富む。調査区割りは工程上、番屋川に接する部分を先行して終了させる必要があったため、やや変則的な区割りとなったが、旧河道の断割りを意識し、概ね南北に長い調査区となるよう、1～4 区に分けて設定した。

今回の調査範囲では、弥生時代中期初頭～近世の遺構・遺物を確認した。大半が旧河道であり、遺構としては溝状遺構・土坑・性格不明遺構・井戸を確認した。以下、各時代の概況を記す。

### 弥生時代中期初頭

遺跡の中でもやや標高の高い対象地北西部で検出した旧河道と、そこから出土した遺物が該当する。対象地北西部は後世の旧河道により削剥された結果、微高地状を呈しており、当該期よりも河床が低下していることを示すと考える。上流側は調査区外に伸びるが、下流側は後世の河道により削られている。埋土はシルト・砂質土の互層で流滞水を繰り返す。確認できた最上層ではややシルトや粘質土が勝ち、滞水環境に近い状態であったと考えられる。

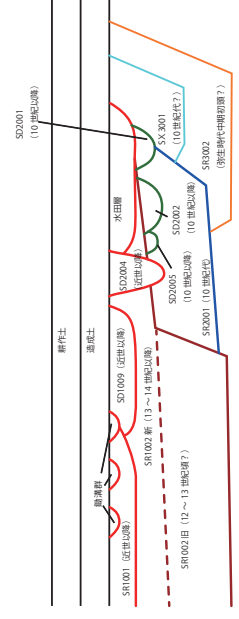
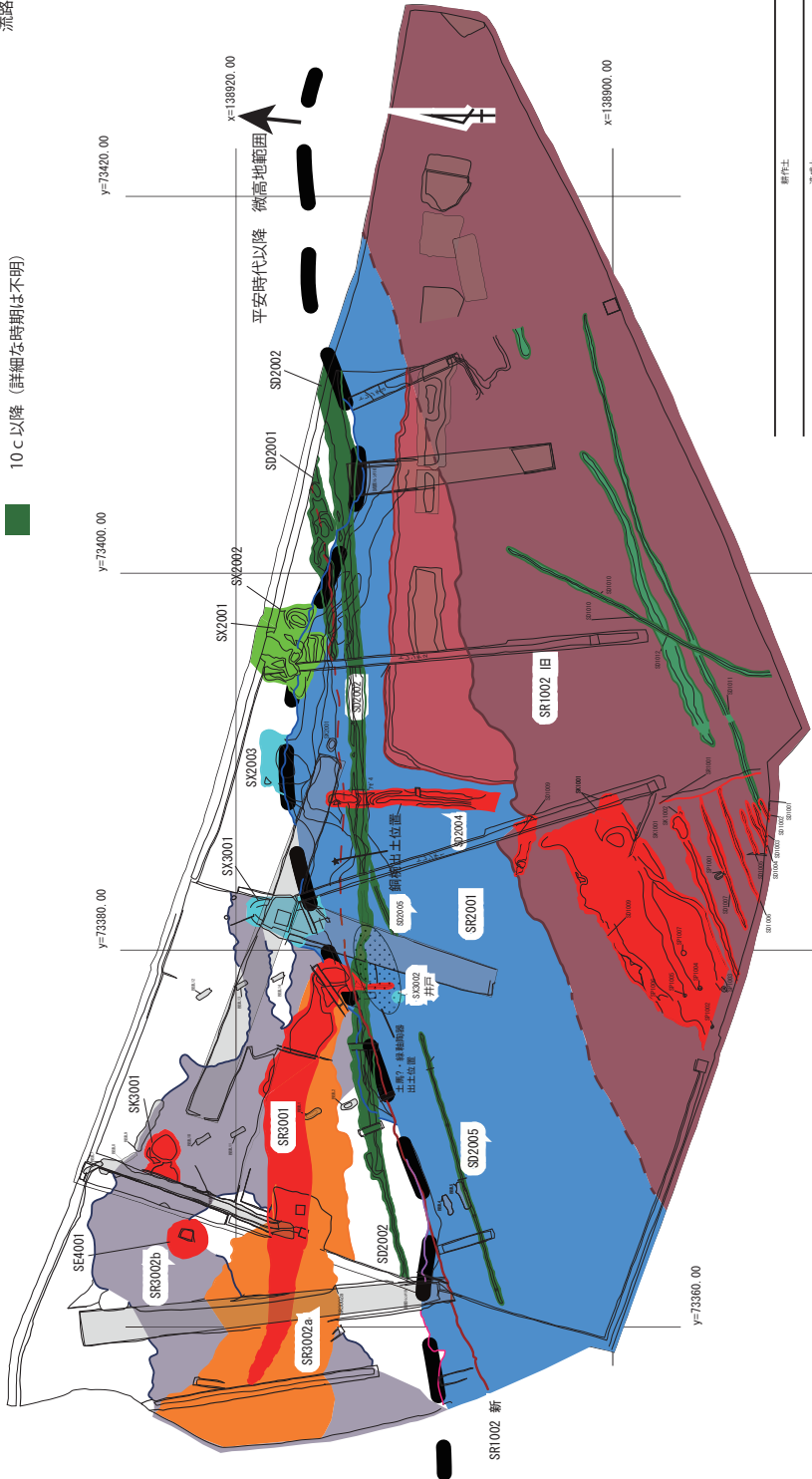
出土遺物は河道の屈曲部分に概ね集中し、図示していないが壺・甕が主体で、やや大型の破片のものが目立つ。

### 弥生時代後期

弥生時代中期初頭の旧河道と概ね同様の位置で旧河道を確認した。埋土は砂質土が主体で流水環境にあったと考えられ、中期初頭の旧河道と堆積状況が異なる。下流側は後世の旧河道で削られている。

出土遺物はほぼ全面から散漫に出土しているが、流路北側肩部で若干まとまる部分が認められた。図示していないが甕が主体である。

- 近世以降
- 13 ~ 14 c 頃
- 12 c 以降 (詳細な時期は不明)
- 10 c 以降 (詳細な時期は不明)
- 弥生時代後期
- 弥生時代中期
- 着色無しは弥生中期以前の  
流路堆積



第3図 遺構配置図 (1/400) 及び遺構概念図

## 平安時代

対象地の中ほどで、東西方向に流れる旧河道と先述の微高地上で大型土坑状の性格不明遺構を確認した。性格不明遺構については旧河道の落ち際に位置しており、埋没後に旧河道による削剥の影響を受けているものと旧河道の埋没と並行しているものとが認められる。開削時期は概ね 10 世紀代のものと考えられるが、量的にあまり多く出土していないため、個別に詳細な時期を決定するのは困難である。唯一 SX3001 として調査を行った遺構については、埋土



写真 1 平安時代以降溝完掘状況（西より）

下層を中心に須恵器・土師器・黒色土器などが比較的まとまって出土した。試掘調査時に 2 本のトレンチが同遺構上にかかり、その際に大きく掘削していることから正確な形状と遺物の埋没状況が十分に記録できなかったものの、微高地上から流路に向かって落ち込むように開削された状況が窺える。流路低部側にまとまった遺物の中に、外面底部に「上井」の墨書が施された黒色土器碗のほか、斎串片と思われる薄い板状木製品が含まれる。流路内の遺物についても微高地からの落ち際を中心に出土する傾向があるものの、量的にはあまり多くはない。その中には須恵器の猿面硯や杯を転用した朱墨付着の転用硯のほか、緑釉陶器 3 点・土馬脚部片 2 点などを含む。更に、埋土最上層精査中に帰属遺構は不明であるが、銅碗の破片と考えられる銅製品の小片も認められる。

なお、旧河道埋没後の肩部付近で比較的直線的に掘削された東西方向の溝状遺構が 3 条確認できた。うち、SD2002 として掘削したものは断面形状が箱状を呈し、ほぼ調査区全面を横断する。西端では極めて浅く残存状況が不良であり、西側の微高地が後世の削平を受けていることを裏付けると考える。出土遺物は古代のものを中心としていることから当該期のものである可能性が高いが、小片が中心であるため、詳細は不明である。

## 中世

対象地南半部の番屋川際で中世前半期の旧河道と、その上位で調査区の大半を覆うその後に堆積した埋土を持つ後出する旧河道を確認した。後者は褐色系のシルト層で流路というよりも滞水環境下で緩やかに堆積したものと考えられる。土師質土器足釜などが含まれたやや希薄な包含層で、対象地の南半部を覆っており、13～14 世紀以降の年代を充てることが出来る鍵層となる。対象地の南部でこの層の低位について下層確認を行ったが、約 1 m 掘り下げたところで人頭大の亜角礫を含む砂礫層が確認できた。著しい湧水のため、それ以上の掘削は行わなかったが、その過程で微量ながら十瓶山産のものと考えられる 12 世紀代の甕の破片が認められ、現状ではそのころの堆積であると考えておく。先述の 10 世紀代の遺物を含む流路を削剥して堆積していることをみても、年代観に矛盾はないと考える。上流側に位置する三殿出口遺跡においても中世埋没と考えられる礫岩を含む河川堆積層が存在しており、旧番屋川が当該期に土石流により埋没したと考えられる。

## 近世

13～14 世紀の堆積層上面において、近世のものと考えられる鋤溝群などを掘削したほか、幹線水路



ないし洪水堆積層を検出した。また、微高地上では井戸1基と底部に板を敷いた土坑状の遺構を確認した。井戸は微高地上が削平されていることから、本来の深さは残存していないと考えられる。石組のみが確認でき、下の井筒については存在しなかった。

### まとめ

今回の調査では、弥生時代中期初頭～近世の遺構・遺物を確認した。弥生時代については明確な遺構は伴わないものの、残存状態が比較的良好な資料の出土から当該期の集落が近隣に存在する可能性を窺わせる。また、平安時代の遺構・遺物も量的には多くはないものの硯や律令的祭祀に伴う遺物など、一般集落から出土するものとは一線を画すものを含んでおり、近接した範囲内に公的施設のような性格を持つ遺構群が分布する可能性がある。特に、「上井」墨書土器の存在からは遺跡周辺で開削された用水の取水口とそれを管理する施設ないし関係者の存在を窺うことが出来る。時代は前後するものの近接して坪井遺跡や内間遺跡、やや離れたところで西村遺跡といった古代の遺跡が展開しており、大内平野における古代の動向を窺う良好な資料の一例を加えることが出来た。また、旧河道の堆積は今後出土遺物や堆積順序を詳細に検討する必要があるものの、いわゆる完新世段丘の形成過程を窺うことが出来る資料として用いることが可能であると考えており、周辺における今後の調査成果と合わせ、さらなる検証が望まれる。

佐藤竜馬 2016 「讃岐における古代～中世土器編年をめぐる基礎作業（1）9世紀後葉～11世紀前葉の供膳器種」『香川県埋蔵文化財センター年報 平成26年度』香川県埋蔵文化財センター



写真2 弥生時代旧河道完掘状況（西より）



写真3 平安時代旧河道完掘状況（西より）



写真4 SX3001 遺物出土状況



写真5 SX3001 出土墨書土器

## こうのいせき 神野遺跡

本遺跡はさぬき市津田町津田に所在する弥生時代から近世にかけての遺跡である。遺跡周辺の地形は、南側に標高約 260 m を測る火山が、東側には津田湾が、北から西にかけては津田川により形成された氾濫原がそれぞれ認められる。遺跡は火山北麓が津田湾へ向けて伸びた先に形成された砂堆上に立地する。

周辺には岩清水八幡遺跡・琴林遺跡といった古墳時代前期の製塩遺跡などが知られ、先述の立地条件を裏付ける。また、神野遺跡対象地の近接地でも古墳時代前期の小型壺などが完形で出土している。あまり転磨を受けておらず、近隣に集落などの存在が想定できる。

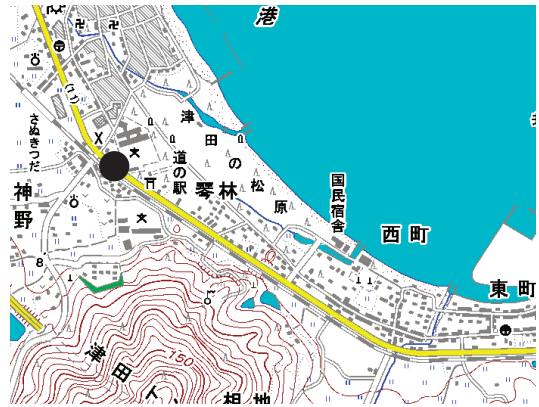
遺跡の堆積状況や遺構の埋没状況は、褐色～黄褐色の締まりの悪い細砂質土の地山を掘り込み、褐色～黒色の締まりの悪い細砂質土により埋没するものが多い。遺構面は基本 1 面である。調査区は調査工程と物理的障壁となる国道 11 号を基準に設定し、道路の南側を 1 区、北西部を 2 区、北東部を 3 区とした。

### 1 区

遺構面直上まで攪乱層が入り、一部は遺構面を破壊する。北から南へ緩やかに傾斜する地形で、中央部は攪乱層により若干窪まる。南へ下がるのは、砂堆の後背湿地へ向かう傾斜のせいであろう。調査区東端で近世の落ち込みを、西端で弥生時代後期の落ち込みをそれぞれ確認したほか、中央付近では近代以降の廃棄土坑を多数確認した。近世の落ち込みからは少量の陶磁器片並びに瓦片を得たが、詳細な時期比定をするのは困難である。弥生時代後期の落ち込みからは少量の弥生土器甕などの小片を得た。試掘調査時にも当該期の遺物が出土しているが、東半部は近世以降の土坑により破壊されており、試掘時のトレンチから出土した弥生土器片はこの土坑埋土に混入したものが取り上げられたと考えられる。

### 2 区

区画の大半が隣接する国道 11 号が昭和 26 年度に施工された際、宅地を同じ高さに嵩上げたものと考えられる造成土に覆われる。造成土直下は主に耕作土面で、近代の面と考えられる。造成直前まで機能していたと考えられる建物の土間痕跡や後述する砂糖竈跡がこの面で確認できる。調査区内は概ね平坦であり、砂堆の頂部付近に相当すると考えられる。遺構は主として近世～近代の柱穴並びに廃棄土坑で、近代のものがやや目立つ。この中で、SF2001 として調査した砂糖竈跡は、この地で昭和 30 年代後半頃まで行われたという製糖業の存在を裏付ける遺構として貴重である。南半部が攪乱により著しく破壊されているが、2 基あるカマドの焼成部のうち 1 基の奥壁が残存している状況が確認できた。



第 4 図 遺跡位置図 (1 / 25,000)

(国土地理院 1 / 25,000 地形図「讃岐津田」の一部を加工して利用)



### 3区

対象地北側東半に設定した区画である。区画の大半が東西に細長く、面的な調査が困難であったことからトレンチ調査を行った。堆積状況は隣接する2区と同じ状況である。遺構面直上まで造成土が及ぶほか、部分的に現代の建物基礎などの攪乱が存在する。掘削した北半部で近代の小穴が5基確認できた。南半部では遺構の存在は確認できなかった。



写真6 左：1区全景（東より）・右：2区全景（西より）

### まとめ

今回の調査では、弥生時代後期及び近世～近代の遺構を確認した。周知の包蔵地としての神野遺跡内では冒頭に述べたように古墳時代前期の遺物が出土していることから、当該期の集落、あるいは遺跡の立地と周辺環境から製塩遺構の検出が見込まれていたが、それを裏付けるものをほとんど確認できなかった。しかし、弥生時代後期の遺構・遺物が確認できたほか、遺構内外から古墳時代後期・古代・中世各期の遺物が少量ながらも出土しており、本来的には活発ではないにせよ、人の生活の場として機能していたことを確認できた。特に、近世以降の資料ではあるが、東讃地域で3遺跡10基知られていた砂糖竈跡の類例が確認できたこと、東かがわ市西部に限られていた検出例がさぬき市域まで広がったことは当該期の製糖業の在り方を考えるうえで貴重な成果があがったといえる。

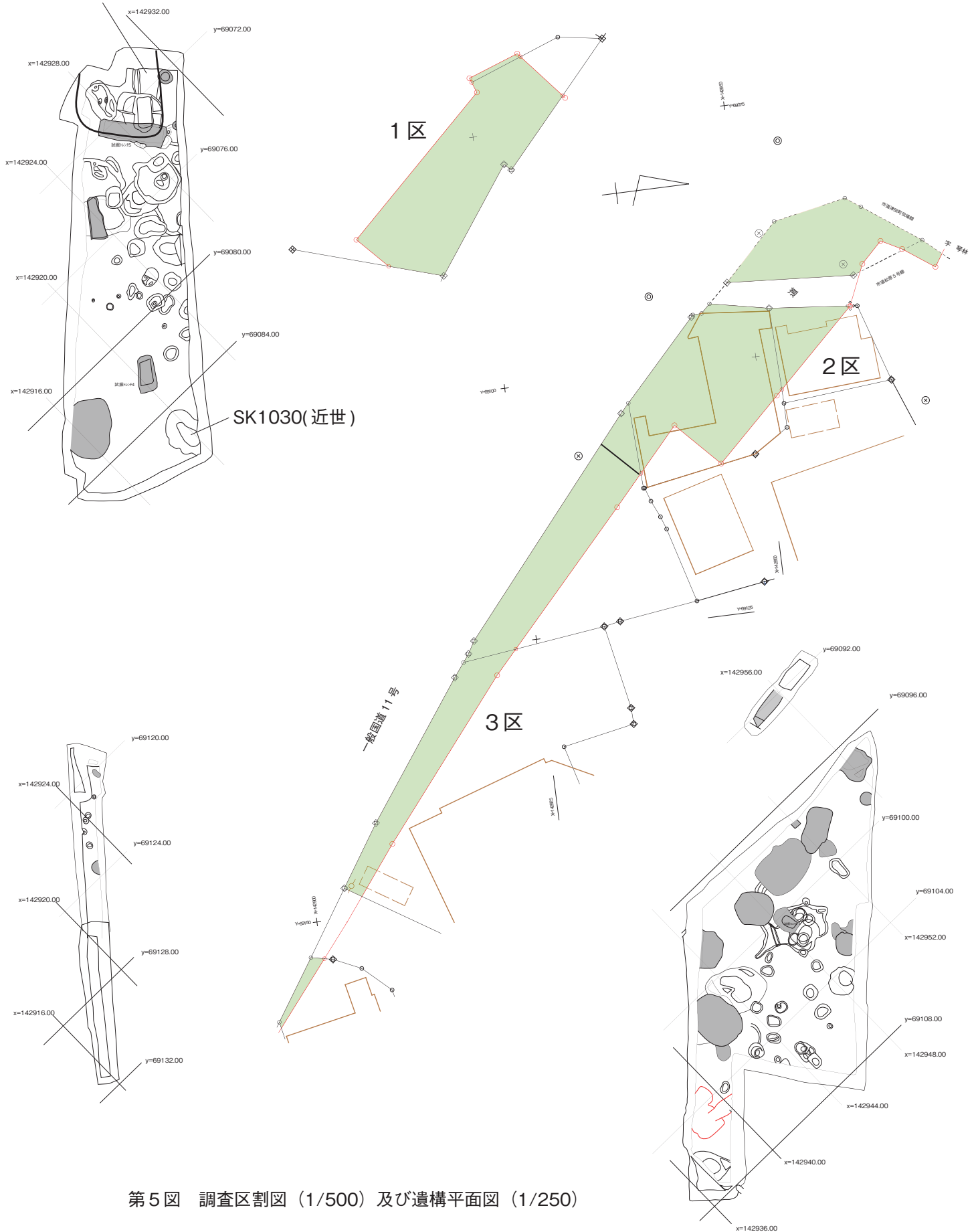


写真7 2区 SF2001 床面炭化物検出状況（北より）



写真8 2区 SF2001 床面確認状況（北より）

SK1002(弥生時代後期)



第5図 調査区割図(1/500)及び遺構平面図(1/250)



よこいなんばらいせき  
横井南原遺跡

横井南原遺跡は、高松市香南町横井に所在する。県道円座香南線（香南工区）建設に伴い、発掘調査が実施された。

調査は平成29年1月に実施され、隣接する尾池の堤体付近394㎡の調査を行った。

遺跡は段丘面上に位置しており、今回の調査地はその縁辺付近に当たる。表土と近世以降の畑作に伴う造成土等を除去すると、現地表面よりおよそ1.0m下から、遺構面が確認された。遺構面とした黄色シルト層が基盤層と考えられ、後世の削平を受けているものの、調査区の西から東へ向かい緩やかに下がっていく地形を呈している。

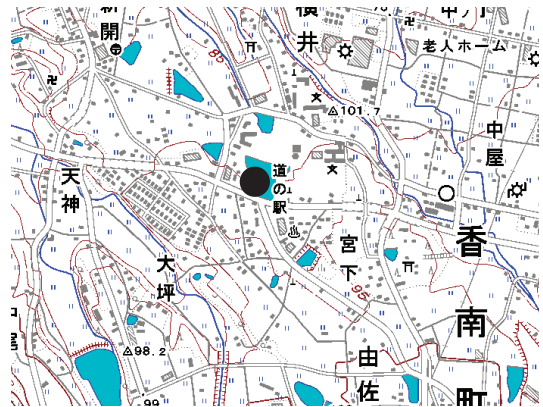
調査地の中には、近・現代の攪乱が多く認められるが、遺構面が残存する部分では溝・柱穴といった遺構が確認されている。

SD1001は調査地をほぼ北流する溝である。深さは約0.2m、幅は最大2.5mを測り、尾池の汀線に沿い、調査区より北側ではため池内に続く平面形態を持つ。

埋土は灰白のシルトが中心となり、基盤層に由来するシルトブロックを含むことから、人為的に埋め戻された可能性が高い。遺物量は少なく、須恵器・土師器片が大半であり、つまみを持つ須恵器杯蓋など9世紀前半の資料が多く、埋没時期もこれらの時期に当たると考えられる。

SD1001の西側には、小規模な柱穴が数基確認されており、いずれも埋土は灰白色シルトであり、遺物はほとんど含まない。埋土の類似性から、SD1001と同時期に埋没した可能性が想定できる。

今回の調査は、遺跡の中でも段丘の縁辺の調査であり、遺構・遺物ともにそれほどの密度では確認されなかった。しかし、古代のものと考えられる溝が確認されたほか、地形的に上がる西側には少数ではあるが遺構が確認された。さらに西側では試掘調査でも柱穴などが確認されており、集落の中心により近いものと想定される。隣接地の調査に際しては、基盤層の削平状況も加味したうえでの地形復元を行い、過年度の成果も含めた遺跡全体の評価を行うことが課題となる。



第6図 遺跡位置図（1 / 25,000）

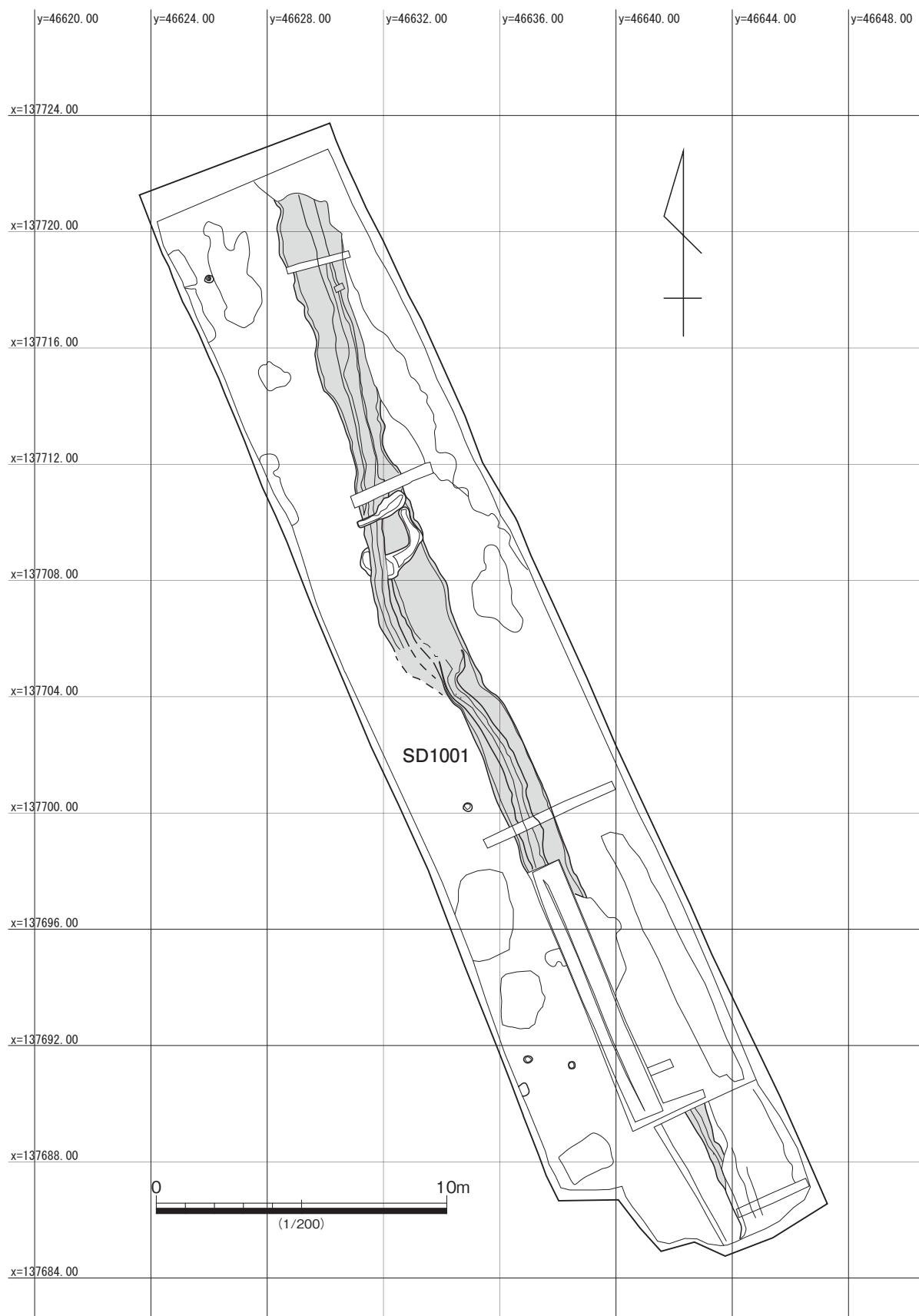
（国土地理院1/25,000地形図「川東」の一部を加工して利用）



写真9 SD1001 全景（南西より）



写真10 SD1001 断面（北より）



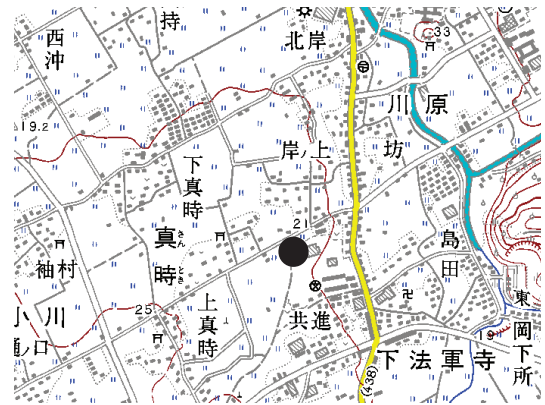
第 7 図 遺構平面図

## きし うえいせき 岸の上遺跡

### 1 立地と環境

本遺跡は丸亀市飯山町川原に所在する。調査地は丸亀平野東部を北流する土器川と大東川の間位置し、讃岐富士とも呼ばれる飯野山（標高 421 m）の南 1.2km の水田地にある。

丸亀平野には北から 30 度西に振れる条里型地割が複数の旧郡域をまたいで広がるが、周辺には南西から北東に向けての地割の乱れがある。これは古く土器川が現在の大東川方面へ流れた痕跡で、本遺跡はその旧流路域の北岸、歴史地理学で旧南海道と推定された直線道路（市道樋ノ口岸ノ上線）に面する南北 260 m、東西 40 m の範囲である。



第 8 図 遺跡位置図（1 / 25,000）

（国土地理院 1 / 25,000 地形図「丸亀」の一部を加工して利用）

### 2 調査区割と層序

調査は平成 25 年度から継続しており今年度は市道より南の 7～10 区の調査区を設定した（第 9 図）。基本層序は 1. 造成土、2. 耕作土、3. 黄橙色粘質シルト（1a 層）、4. 灰褐色砂質シルト（1b 層・1c 層）、5. 黒褐色砂質土（2 層）、6. 基盤層である。基盤層は旧土器川形成の砂礫層及び黄色系砂質土。2 層は調査地全域で基盤層を覆う。2 層上面は調査地中央付近が高く、北と南にそれぞれ傾斜する。北側では 7 世紀末～8 世紀初頭（和泉陶器窯 TK48 型式）の土器を含む 1b 層、10 世紀後半の土師器を含む 1a 層が順に堆積する。南側では 7 世紀中葉（同 TK217 型式）の土器を含む 1c 層が堆積する。遺構面は 1b 層を挟む上下の 2 面で捉えた。第 1 面の遺構は 8 世紀初頭前後から 10 世紀後半、第 2 面の遺構は主に古墳時代後期から末期にあたる。ただ厳密には古代の掘立柱建物は 1b 層堆積直前から構築されており、それらを含めて便宜上第 1 面の遺構とした。

### 3 第 2 遺構面（古墳時代）の遺構

第 2 面では古墳時代後期の掘立柱建物 6 棟、竪穴建物 11 棟、溝数条を確認した。遺構埋土は 2 層と類似するので、実際には基盤層上面で検出している。掘立柱建物は 2×2 間または 2×3 間の総柱構造で、6 世紀後半から 7 世紀中葉に属し、配置や主軸方位に規則性は認められない。竪穴建物は全て方形で北ないし西向きに備え付けカマドを持つ。

SH9003（写真 11）は 9 区中央東寄り検出した一辺約 7m の大型竪穴建物である。建物東側の大半が調査区外に延びるため全容は不明だが、西に備え付けられたカマドを良好な状態で検出した。建物の大きさに連動しカ



写真 11 SH9003 竈



マドの大きさも同時期ないしは本遺跡で検出した他のものと比べると規格外に大きく煙道部を含めた奥行が約 2m ある。

そのほか調査区北西部の第 2 面に所属する微低地部 (1b 層下位) でガラス玉 4 点、碧玉製管玉 1 点、滑石製有孔円盤 1 点、白玉 279 点、鉄滓等の鍛冶関連遺物多数がまとまって出土した (写真 12)。

#### 4 第 1 遺構面 (古代) の遺構

主に調査範囲の北側で古代の遺構を多数検出した。主な遺構は掘立柱建物 12 棟、溝 10 条である。掘立柱建物は主軸方位により二つのグループに分けられる。一つは正方位を指向する一群である (写真 13)。8 区にて 6 棟を検出しており、そのうち 5 棟が 8 区北半で西辺を揃え

直線的に並ぶ。5 棟は構造・規模に規格性がある。SB8008 と SB8009 は 3 × 4 間に面積約 43㎡とほぼ同じ規模・構造。SB8010 は 4 × 4 間だが面積は前二者とほぼ一致する。SB8020 と SB8021 は 4 × 4 間で面積が約 21㎡で統一されており、こちらも造営に際しての規格を読み取れる。柱穴出土の遺物はほとんどなく、出土遺物による時期決定は困難である。

もう一つは主軸方位を丸亀平野の条里地割に合わせた建物群 5 棟である。SB8001 は正方位の SB8008 と同規格・同規模の総柱構造だが、柱穴の切り合いから SB8001 が新しい。他はすべて側柱構造の建物で、8 ～ 10 区の境付近で重複する。このうち SB8002 は桁行 7 間、梁行 3 間以上 (床面積 70㎡以上) の大規模な側柱建物である。関連遺構等から出土する須恵器により 8 世紀第 2 四半期に構築されたことがわかり、また掘り方内で出土した平瓦は SB8002 構築以前、周辺に瓦葺建物が所在したことを示す。建物 SB8002 は 1b 層の上面から掘削されているが、そのほかの条里方向の建物は 1b 層堆積前に掘削されたものである。ところで、建物 SB8002 の柱穴は深さが約 70cm と深い、1b 層下位で検出した建物柱穴は深さが 30 ～ 45cm 程度でやや浅い。おそらく 1b 層堆積前に上部を削平されたのであろう。このような 1b 層堆積前後の地形変容に関しては、市道北側の過年度調査で確認された水田耕作痕との関係も考えられる。

以上の古代の建物群は 1b 層堆積前に構築された正方位の建物群 (1 期)、同層堆積前に構築された条里方向の建物群 (2 期)、1b 層堆積後に構築された条里方向の建物群 (3 期) に区分できる。このうち、3 期は 8 世紀第 2 四半期 (平城 II) に、2 期と 3 期の間の 1b 層が 7 世紀末から 8 世紀初頭 (平城 I) に位置づけられ 2 期および 1 期はそれより古い (第 10 図)。



写真 12 出土した玉類



写真 13 正方位建物 (北より)

## 5 南海道推定地の調査

10区北端では現道の際でSD3002、3003を検出した（写真14）。これらは過年度の調査でも確認されており、軸方向が周囲の条里に一致すること、南海道の推定線に沿うことから南海道の道路側溝と考えられている。I b層及び7世紀中葉頃形成の河川堆積層を掘り込んでいる。遺構内には直径10cmから20cm程度の礫が大量に散らばっていた。今回の調査では最終埋没層中より10世紀後半の土師器杯が出土した。掘削時期や機能時期を推定することのできる遺物は出土しなかったが、過年度の調査ではSD3003から7世紀末から8世紀初頭、SD3002の最上層から8世紀後半代の遺物が出土している。



写真14 南海道側溝（東より）

## 6 まとめ

第2遺構面の竪穴建物は今回の調査で規模の大きい建物を確認した。既往調査を含めると第2面所属の6世紀後半から7世紀中葉の遺構は竪穴建物2～3棟と掘立柱建物1棟で構成する単位が複数併存し、建物規模や出土品に単位間での差異が認められることがわかる。古墳時代後期の集落構造を検討する良好な資料である。

古代に造営された掘立柱建物群については、その規格的な配置に注目できる。1～3期の建物群は、時期決定の決め手となる遺物が極めて少ないが、規模や構造に示された規格性は、郡衙の可能性が指摘されている普通寺市稲木北遺跡の建物群同様に特筆すべきであり、公的機能を付与された倉庫群であった可能性が指摘できよう。開始時期は7世紀代の可能性が高く、今後の整理次第では評衙正倉から郡衙への変遷として評価できるかもしれない。

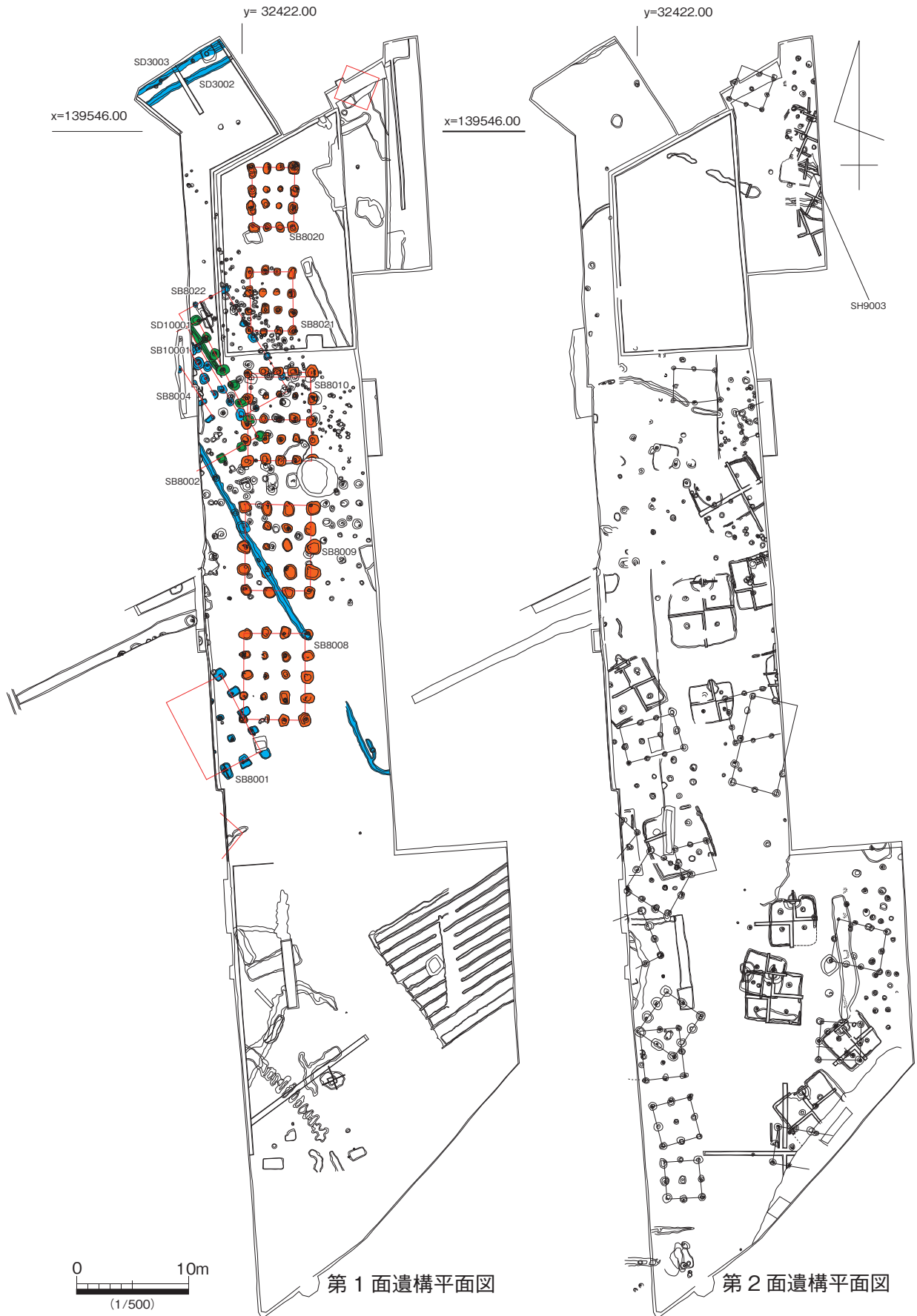
南海道推定地の調査では今回は道路側溝と積極的に評価できる材料は得られなかったが、過年度調査では側溝底の凹凸など水路以外の機能を反映する特徴がみられることと、公的建物が隣接したことが今回の調査の結果ほぼ明らかとなったことから、現時点では当該遺構を古代南海道遺構とみて矛盾する点はない。



第9図 調査区割図及び西壁断面図

(丸亀市都市計画図「図27」・「図30」の一部を加工して利用)





第1面遺構平面図

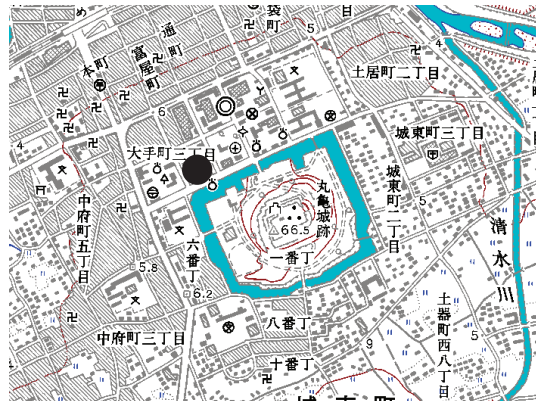
第2面遺構平面図

第10図 全体平面図

まるがめじょうあと(おおてまちちく)  
**丸亀城跡 (大手町地区)**

丸亀城跡(大手町地区)は丸亀市大手町に所在する。高松地家裁丸亀支部庁舎新営工事に伴い、平成28年6月から10月の期間で、新庁舎建設予定範囲のうち784㎡を対象として発掘調査を行った。調査は、対象地を1～3区に分けて行った。調査地は丸亀城跡の北西、内堀と外堀の間に位置し、近世には丸亀藩家臣の屋敷地が広がっていたとされる。

今回の調査では、部分的であるが江戸時代の武家屋敷地の様相が判明したことが主な成果である。



第11図 遺跡位置図(1/25,000)

(国土地理院1/25,000地形図「丸亀」の一部を加工して利用)

まず、遺構面に至るまでの状況について説明しておく。

表土および現代の造成土の下からは、明治8年に大手町周辺に設立された帝国陸軍歩兵第12聯隊の基地の痕跡や、それらの解体に伴って形成された層が検出された。歩兵第12聯隊自体は戦後まで存続しており、当時の記録や実際の遺構からもこの期間の中で幾度か建物の配置が変更されていることがわかる。

近世の遺構面は、それら歩兵第12聯隊の施設の整地層より下位、現地表面より0.8mほど下がった高さで確認された。

調査地は、亀山から延びる丘陵の縁辺に位置し、北西方向に向かい緩やかに下がる地形を呈している。調査区西部分では、これらの地形を解消するように施工された整地層が確認された。整地層が調査地全域に存在したか、地形が傾斜する箇所部分的に用いられたものかについては不明である。整地層からは、18世紀前半のものと考えられる遺物が微量ながら出土している。

なお、整地層より下位では遺構の存在は確認されなかったため、今回の調査では、近世の遺構はすべて同一面でとらえられた。

### 丸亀城築城以前の遺構・遺物

生駒氏による丸亀城築城(1602年)以前にさかのぼる遺構は、今回の調査では確認されなかった。ただし、近世の遺構に古墳時代の須恵器が混入しているほか、少量ではあるが中世の土師質土器や陶磁器、漁労具なども出土する。

近世以前の状況について、今回調査で出土した遺物から言及することは難しく、丸亀城築城以前の集落景観についてはなお不明なところも多い。しかし一定数中世の遺物が出土することから、中世段階に近隣に集落が存在した可能性



写真15 近代建物(下が南)



は高い。

### 近世の遺構・遺物

近世については、遺構の密度は非常に高く、遺構数も多い。

遺構の大半は、廃棄に伴い掘削された土坑であり、出土遺物の中で最も古い時期を示す遺物群は、陶磁器から17世紀後半に比定される。これらには在地で製作されていた土師質土器なども伴う。最新のものとしては、幕末から明治初期の土坑が

あり、端反碗や軟質施釉陶器を多く含むほか、多様な刻印を持つ瓦も目立つ。瓦の変化の背景にある建物の廃絶や屋敷地の居住者の変更といった事象を考えることも、検討すべき課題である。

土坑のほかには、屋敷区画周辺の施設や、屋敷地内の施設の痕跡が検出された。

1区では、屋敷の東西区画を示すと考えられる溝が確認されている。溝は複数のものが切り合っており、18世紀から19世紀前半までの遺物が確認されているため、その期間の中で埋没、再掘削を繰り返していたと考えられる。

2区でも屋敷区画と考えられる範囲の周辺に、区画と同方向の溝が確認されている。こちらも複数回の掘り直しが認められ、埋没後には19世紀前半の廃棄土坑が多数掘削される。

屋敷地内の施設としては、石組み井戸、柱穴が確認されている。井戸は屋敷地の外縁に近い部分に所在し、埋没土には19世紀前半から幕末までの遺物を含み、屋敷の廃絶まで機能していたものと考えられる。このほか、柱穴も検出されているが、建物を復元できるような状況ではない。柱穴と廃棄土坑の集中する箇所が重複することは比較的少なく、柱穴を中心とする遺構の密度が低い部分を囲むように廃棄土坑が展開することから、屋敷地の中でも建物などの施設は、調査地より北側に展開する可能性が高い。

今回の丸亀城跡（大手町地区）の調査では、近世の武家屋敷の区画および諸施設の存在が確認された。特に多量に掘削された廃棄土坑からは、18世紀後半以降を中心とした良好な資料群がいくつか確認されている。

遺構の先後関係も踏まえたうえで出土遺物の整理を行い、丸亀城下町における陶磁器の様相、土師質



写真16 2区 完掘状況（西より）



写真17 1区 区画溝断面（北より）



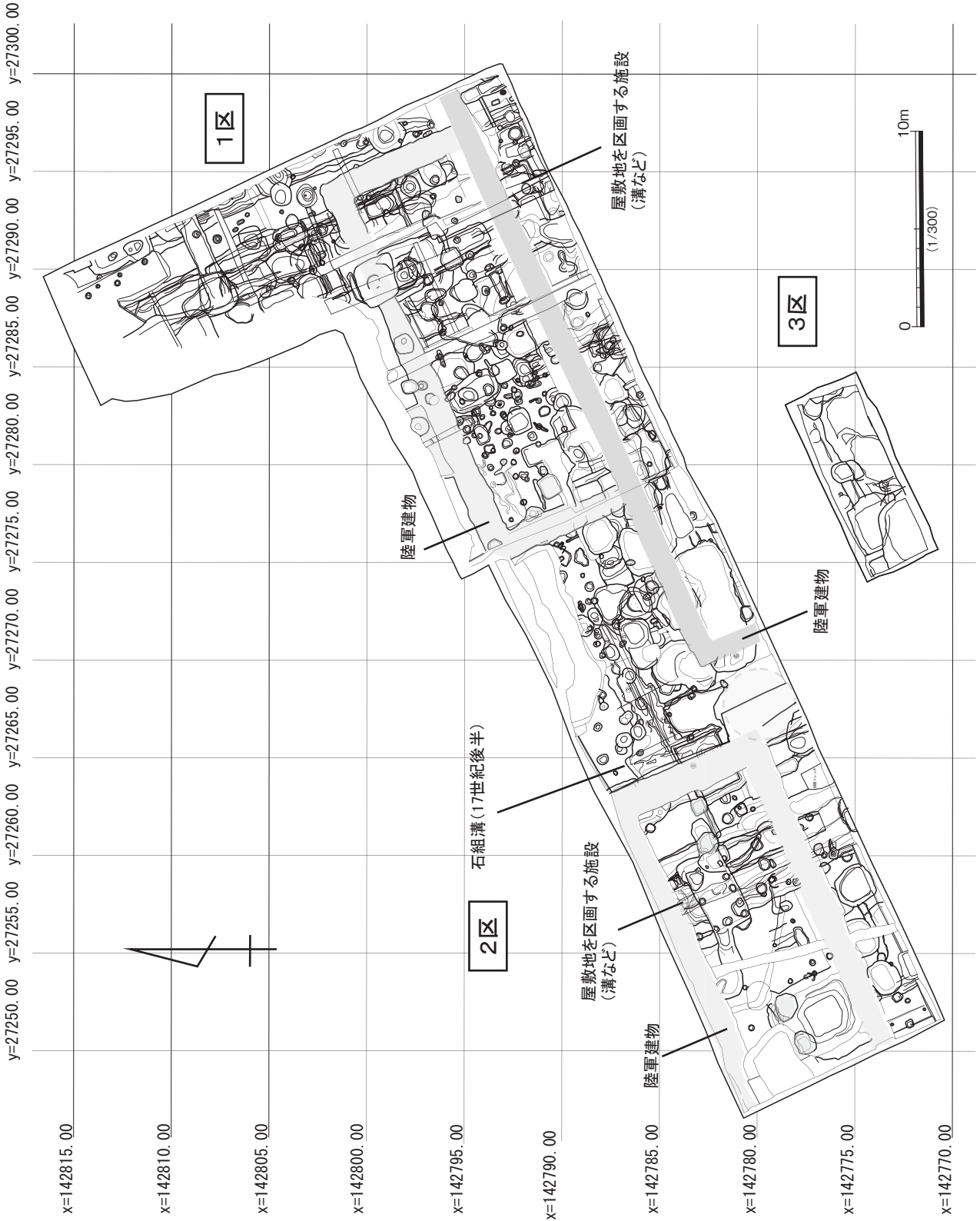
写真18 2区 区画施設周辺（北より）

土器等の在り土器の変遷について検討することが整理作業の課題である。

また、丸亀城下町の中でも大手町地区周辺は発掘調査が比較的集中しており、大手町地区周辺の屋敷区画の変遷、ひいては城下町の整備の段階について、発掘調査成果をもとに見通しを得ることも整理作業での課題となろう。



写真19 3区 土師質土器出土状況



第12図 遺構平面図



なかまたきたいせき  
中又北遺跡

## 1 遺跡の立地

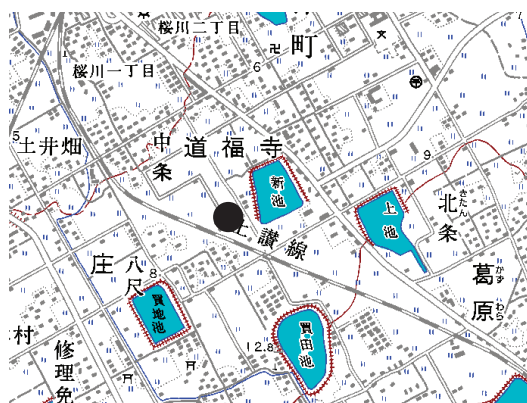
中又北遺跡は、扇状地性の沖積平野である丸亀平野北西部の扇端部に立地する。遺跡の現地表面の標高は約 7 m を測り、現海岸線からの距離は約 1.5km である。遺跡東側には丸亀平野西部の主要河川である金倉川が北流し、西側には桜川など金倉川支流の小河川が北流する。遺跡周辺の地形面は、起伏・地割等から陸側から海側に向かって段丘・氾濫原・三角州帯の大きく 3 つに区分できる。

段丘面は条里型地割が発達する地形面で、埋没旧河道と見られる凹地と自然堤防（微高地）から構成される。

段丘面上の旧河道は、条里型地割との関係で古代以前の形成と推定される旧河道 1 と古代以降に機能していた旧河道 2 に分かれる。旧河道 1 は現地表面の僅かな窪みや空中写真において暗色帯として認められるに過ぎない。中又北遺跡周辺での発掘調査資料が乏しいが、本遺跡から約 1km 南方の小塚遺跡 SR01(香川県教委他 2008)、稲木北遺跡 SD1001・1002(香川県教委他 2008)、永井北遺跡 SR1001(香川県教委他 2008)の調査において、旧河道 1 が弥生時代前期から古墳時代後期の時間幅で埋没することが明らかにされており、更に南方約 3km 位置において東西方向で大規模調査が実施された四国横断自動車道関連発掘調査においても同様の傾向を示す(信里 2016)。今回の中又北遺跡 2 c 区 SR2001 も同様であり、概ね古代までには扇状地扇端部付近の形成・埋積・平準化が完了していたと考えられる。旧河道 2 は条里型地割を開析する形で限定的にみられ、一部には条里型地割に合致した流下位置を示す箇所が存在することから、先行して存在した条里型地割の坪界溝を開析したと考えられる。旧河道 1 の埋没年代と合わせて、古代までの自然堤防帯の段丘化がほぼ完了していたことが推定できる。

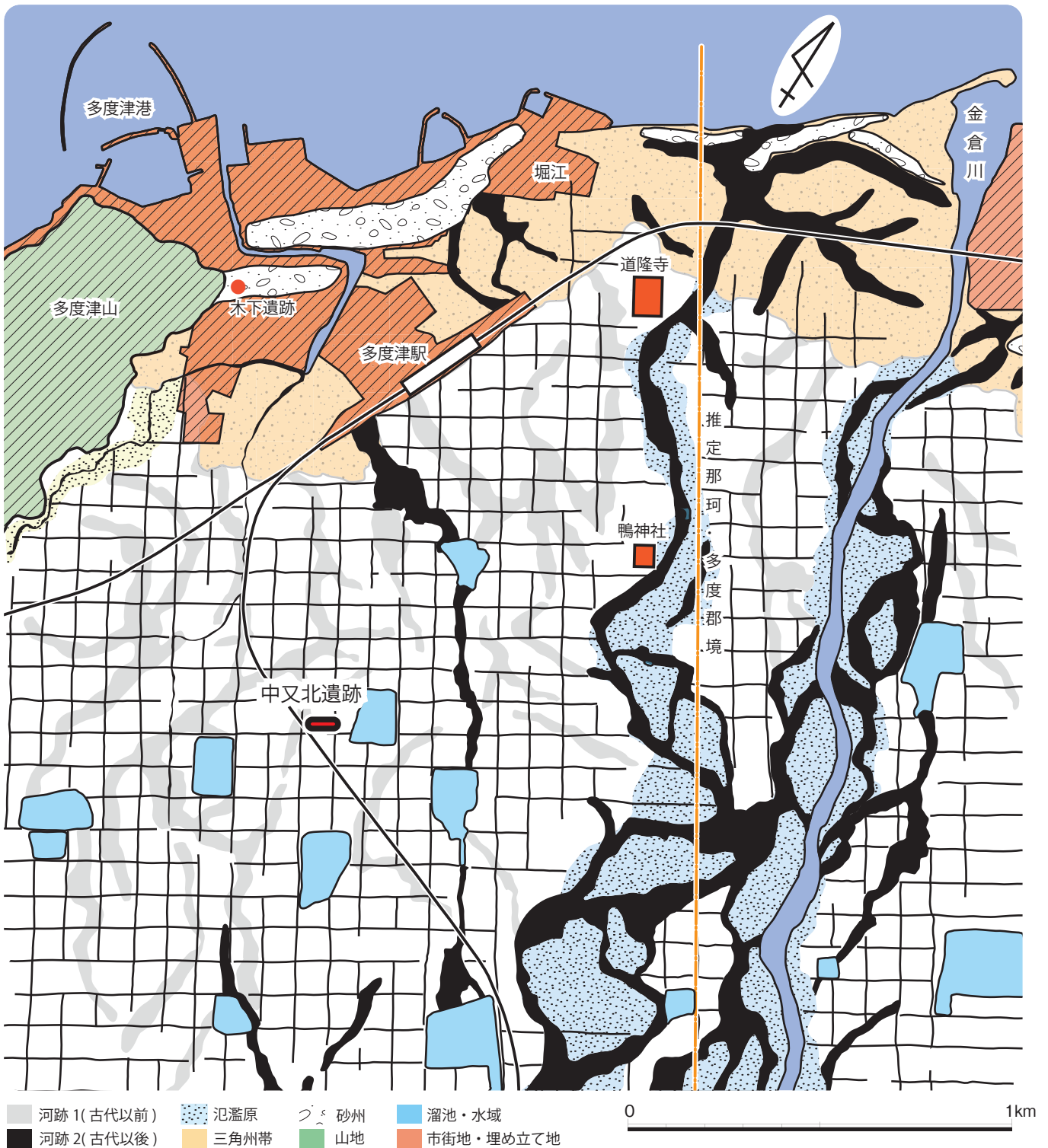
氾濫原面は、現金倉川に東西両岸部を中心にみられる凹地帯であり、段丘面とは高さ約 1m の崖で画される。内部には網目状に流下する旧河道 2 が広がり、基本的に条里型地割は存在しない。推定那珂・多度郡境線の氾濫原面・旧河道 2 は、金倉川が現位置に固定される以前の主要な流路である。氾濫原面の形成年代を示す調査資料が不足しているが、条里型地割の分布や段丘面上の旧河道 1 との関係からみて、古代までには形成され、それ以後も旧河道 2 によって下刻が進み、中世以降に耕作地を中心に土地利用が進んだ地形面と考えられる。

三角州帯は、標高約 3m を境にして海岸部に広がる地形面で、市街化が進むが多くの部分が耕作地として利用されている。段丘面との接続部を除いて条里型地割は分布せず、浜堤列と旧河道 2 が存在している。条里型地割との関係から、古代以降に耕地化が進んだことが予測されるが、それ以前にも盛んな堆積環境下にあった地形面である。浜堤の形成年代は、桜川河口の現多度津町の市街地下に存在し多度津山に付着して東西にのびる浜堤上の木下遺跡(多度津町 1963)から弥生時代後期の土器が採集されているが、資料は限られる。現時点では陸側の段丘化や三角州帯の形成、海水準の変動等により、弥生時代以降に順次形成されたものと捉えておく。



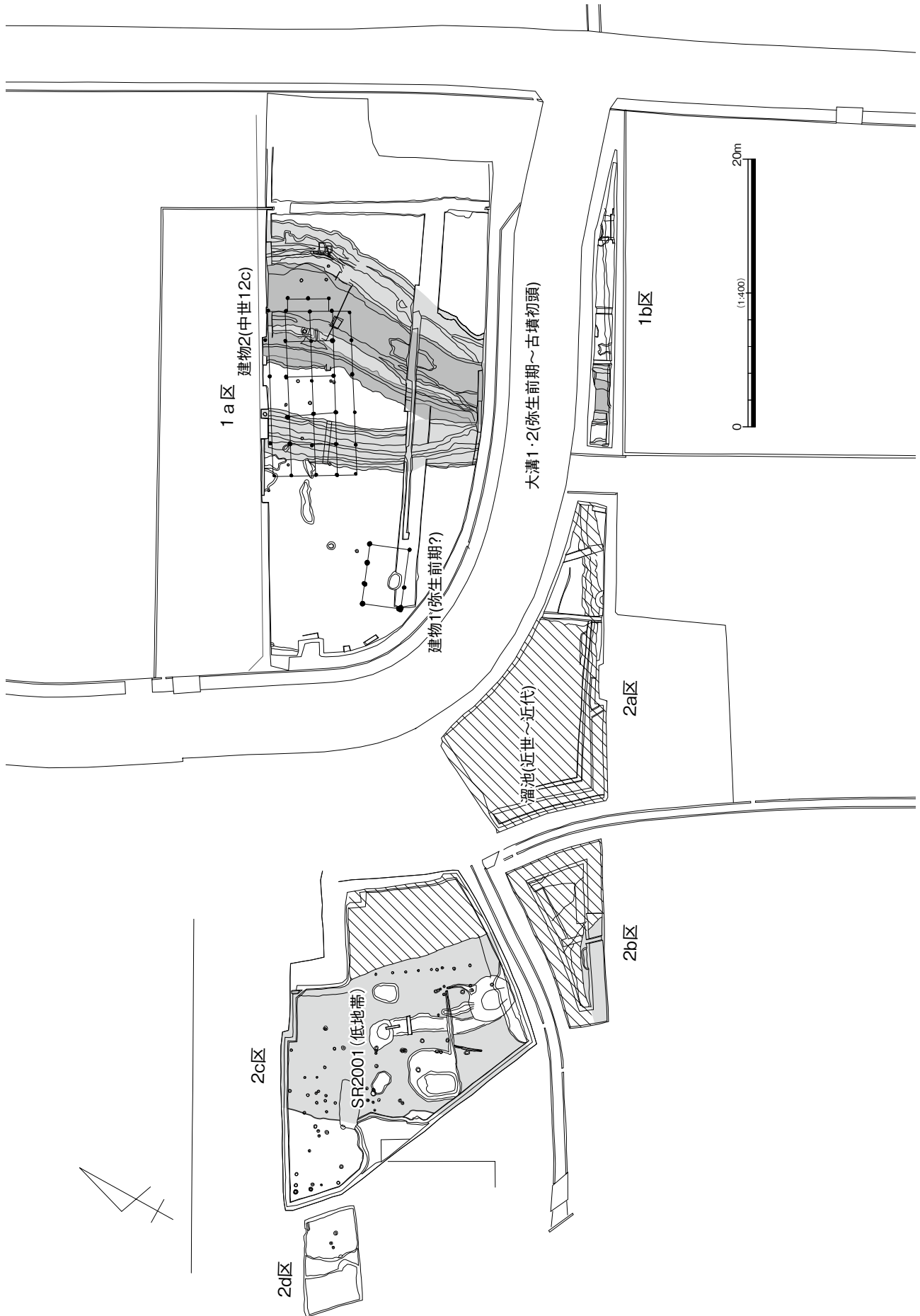
第 13 図 遺跡位置図 (1 / 25,000)

(国土地理院 1/25,000 地形図「丸亀」の一部を加工して利用)



第 14 図 遺跡周辺地形分類図

遺跡周辺には溜池が多くみられる。これらの溜池の築造年代を示す資料は殆ど見られないが、遺跡東部にみられる「中池」「弧池」などの旧河道 2 の凹地を利用した谷池は少数であり、多くは周囲に堤体が廻る皿池である。また、現在もこうした皿池に接して集村化した集落がみられ、讃岐地域において集村化が中世末葉より急速に進む状況がみられる点を考慮すると、遺跡周辺の皿池群の多くは近世以降に村落再編と耕地の再開発が同時に進行した際の所産と考えられる。したがって、遺跡周辺の古代までに



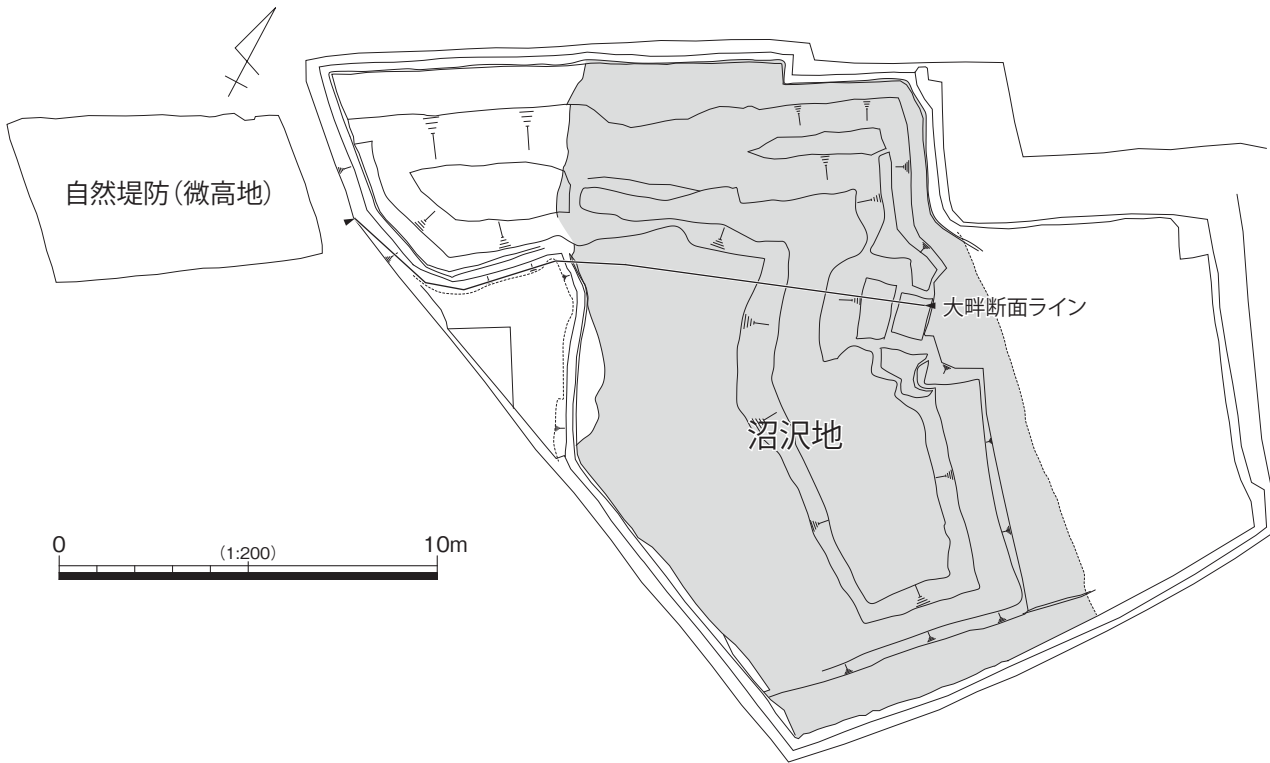
第 15 図 遺構配置図



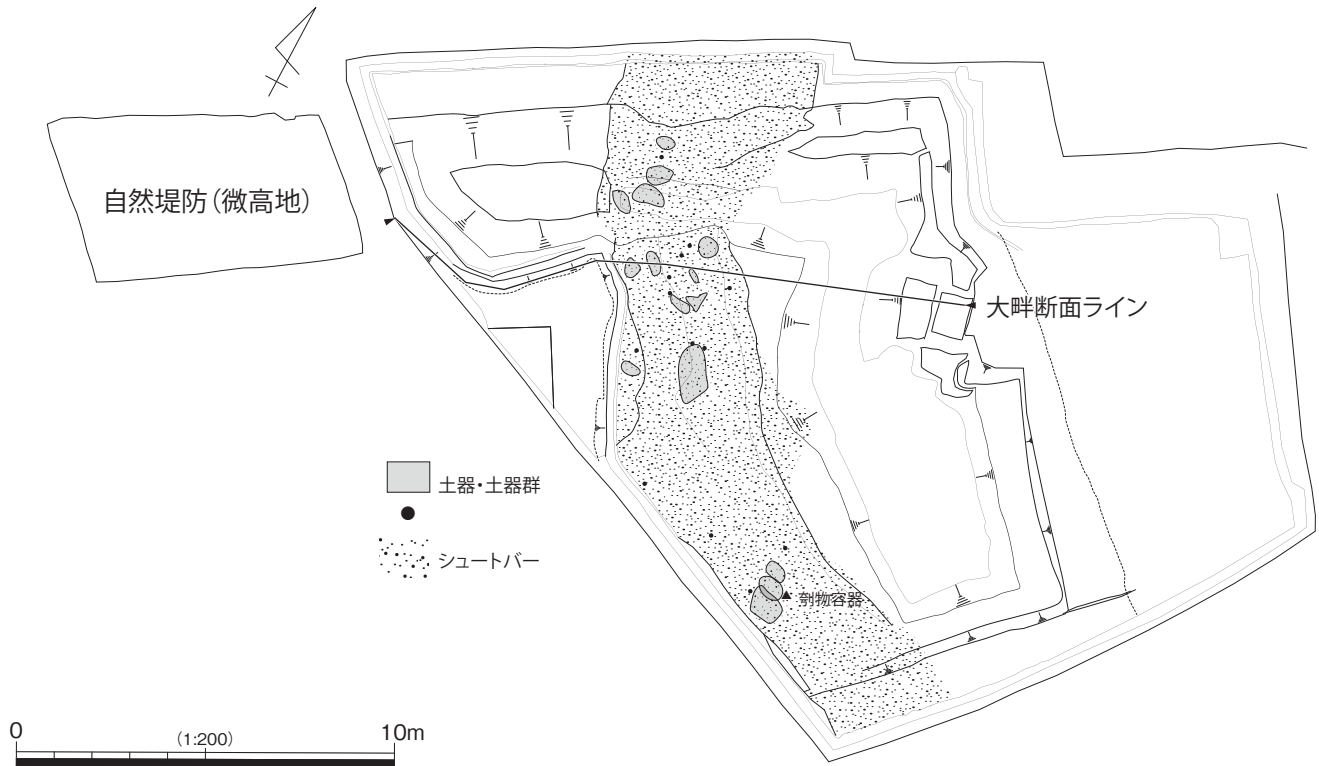


段丘化した地形面の多くは専ら条里型地割に伴う河川灌漑の水路網で耕地経営されていたと考えられる。現在の遺跡周辺の満作状況は近世以後に築造された皿池に依るものであれば、古代・中世において

Phase1.縄文晩期前半



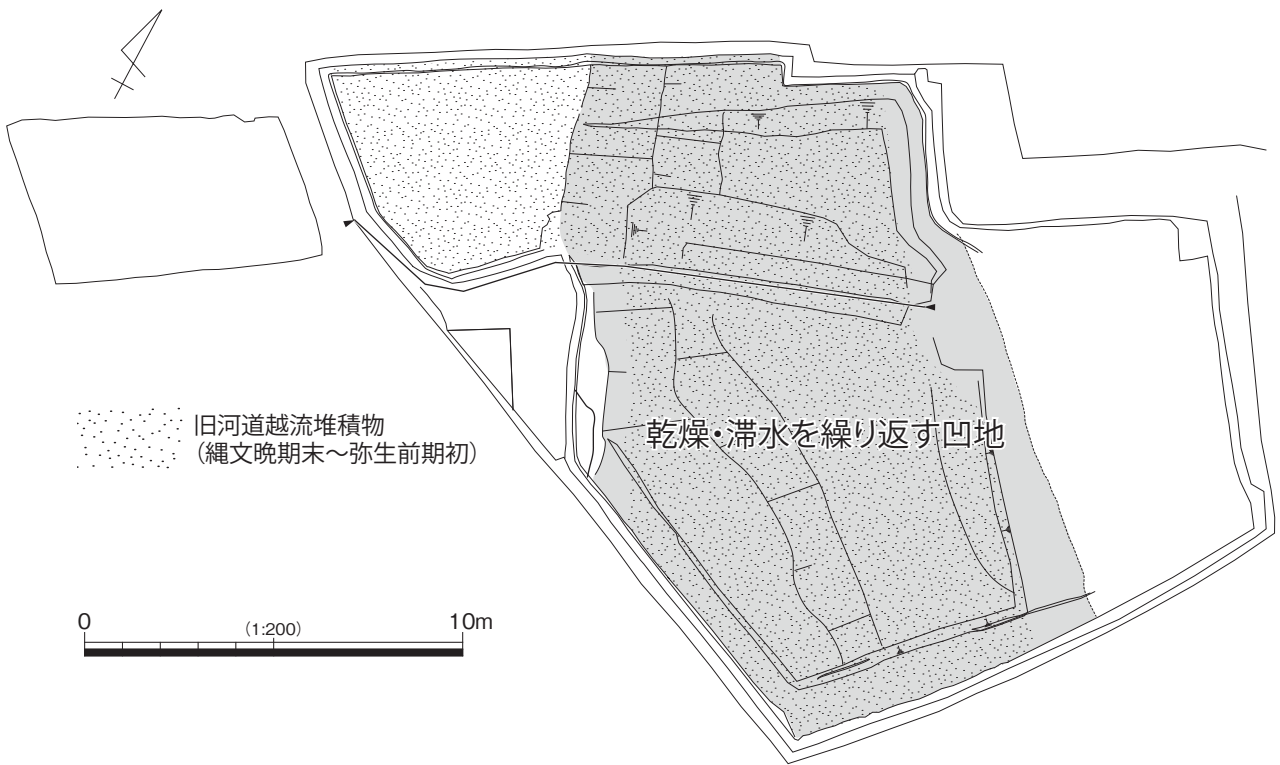
Phase2.縄文晩期中葉



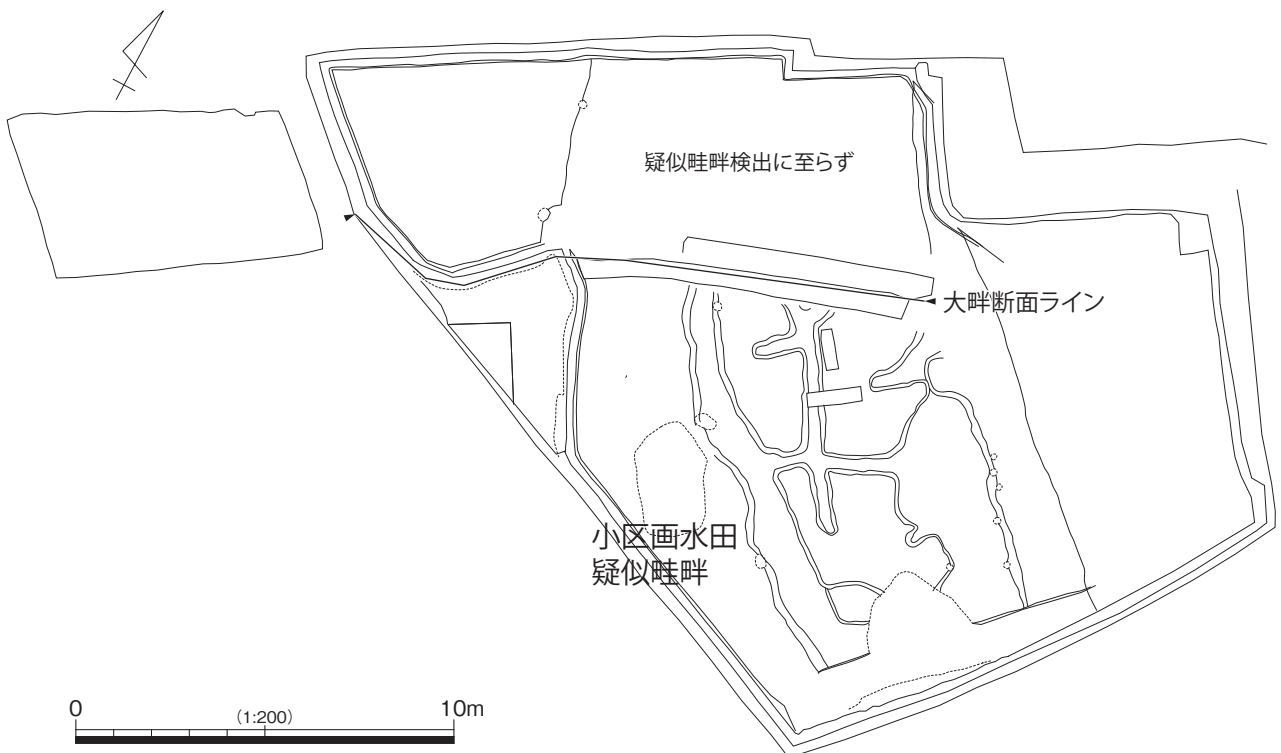
第 17 図 遺構変遷図 1



Phase3.縄文晩期後葉～弥生前期初頭

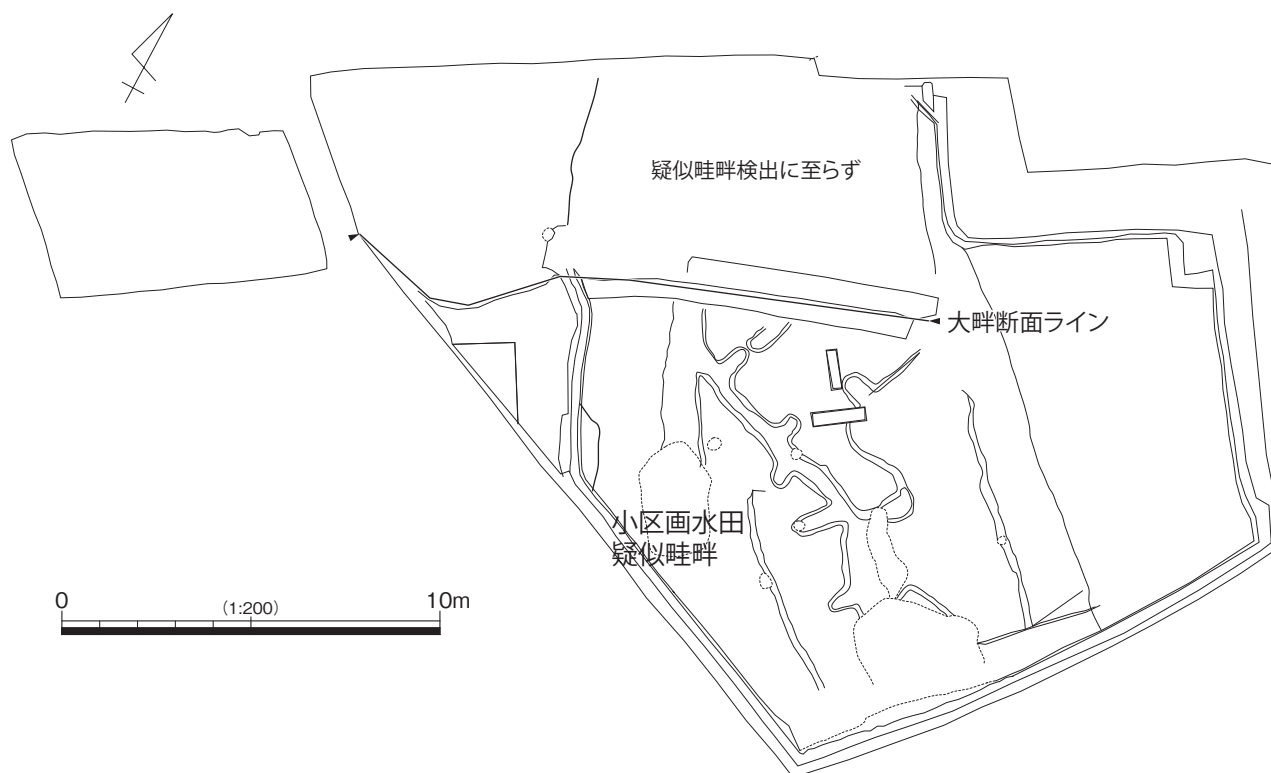


Phase4.弥生前期中葉～後葉



第18図 遺構変遷図2

## Phase5.弥生前期中葉～後葉



第 19 図 遺構変遷図 3

は広範囲に施工された条里型地割とは異なり、耕地面積や収量は限定されるものと考えられる。

以上のように、遺跡周辺は古代以前の自然堤防帯から古代以降の段丘面と大きく二つのステージに分かれる。古代以前の自然堤防帯の段階にも一部で段丘化が生じていた可能性があるが、現時点での細分は困難である。分析対象となる 2c 区 SR2001 は自然堤防帯を開析する旧河道の一つとなるが、形成から埋没まで更にこまかな極微地形の変遷が予想される為、考古学的資料の他に各種分析ではこの点を明らかにする資料の抽出が望まれる。

香川県教育委員会ほか 2008 『稲木北遺跡・永井北遺跡・小塚遺跡』

多度津町 1963 『多度津町史』

信里芳紀 2016 「備讃瀬戸における弥生中期後半期の集落動態」『第 15 回愛媛大学研究室シンポジウム 弥生時代凹線文期(第Ⅳ様式期)の遺跡形成と環境変動』愛媛大学考古学研究室

## 2 全体の遺構検出状況

調査区は 1・2 区に分割し、現道・現水路等の構造物との関係から 1a.b 区、2a～2d 区と小地区の細別を行った。1 区は自然堤防状の微高地及び西側へ下る微高地斜面に相当し、主として弥生時代前期末葉から古墳時代前期にかけて機能する大型灌漑水路を検出した。2 区は、調査区の大半が埋没旧河道に相当し、西端部の 2d 区が自然堤防状の微高地となり、東半部の 2a.b では近世～近現代にかけて機能した溜池、西半部の 2c では西半部が前述した溜池が、西半部で埋没旧河道 SR2001 が検出されている。今回の分析対象となるのは、2c 区の埋没旧河道 SR2001 である。

### 3 2c 区 SR2001 の堆積状況及び変遷

SR2001 は、南東方向から北西方向へ流下する埋没旧河道である。堆積状況から下層・中層・上層下位・上層上位の4つの段階に区分できる。以下、基底部分を含めて、堆積状況の説明を行う。

・SR2001 基底層 SR2001 基底部分は、27層とした灰色砂礫から21層とする極細砂から成る。27層の灰色砂礫より下位は未調査である。27層の灰色砂礫は2～15cm程の砂岩礫を多く含み、粗砂のマトリックスが認められる。絞まりは無く、基底礫層に相当するものとは考え難く、先行する時期の河川堆積層の一部と考えられる。また、27・26層間では粒径差が著しく、下位の26層から上方の21層にかけて漸移的に粗粒化することから、27層・26層間での堆積時期が異なり、26層から21層は一連の堆積環境にあった可能性が高い。また、26層から21層は西側へ向かって厚みを増していく状況がみられることから、堆積時に自然堤防状の微高地が形成された可能性が高い。27層、26層～21層の堆積時期を示す考古資料は未確認であるが、後述する下層の年代観から、縄文時代前葉以前と推定することができる。

・SR2001 下層 断面西半部に堆積する泥炭質の18～20層を下層とする。層界にみられる細砂層から3層に区分しているが巨視的には同一層である。平行葉理をもって堆積する植物遺存体を多く含む粘土層であり、一定期間の止水・滞水条件下で形成されたと考えられる。調査外の北方でSR2001基底層の自然堤防を形成する26～21層がSR2001下層の凹地を堰き止められたことによって、調査地が沼沢地となった環境下で堆積した可能性が高い。SR2001下層からの考古資料は少なく、若干の縄文時代晩期前葉とみられる黒色磨研浅鉢片やサヌカイト片が出土したに過ぎない。

・SR2001 中層 中層とする堆積層は、断面中央から西側にみられる砂層であり、17・16層が該当する。中層の中でも17層は層厚0.6mで断面形がレンズ状を呈する中砂～細砂層で斜交葉理が顕著にみられ、西側へ移動するに従い細粒化する傾向がある(17b層)。17層の断面形や斜交葉理が発達する点からみて、SR2001下層の凹地を開析するシュートバーと考えられる。調査区西側では17層上位に16～13層とする細砂～粘土が堆積しているが、17層・17b層との関係では15層で一端粗粒化するものの、巨視的には上方細粒化の堆積過程を示していることから、SR2001基底部26～21層で形成された自然堤防が本層準の堆積によって更に発達したと考えられる。本層準からの考古資料には、17層下位から縄文時代晩期中葉の谷尻式併行期の土器群が数地点において出土している他、磨製石斧・サヌカイト板状剥片、同剥片、同打製石斧、石庖丁状石器、石皿、磨石・敲石、木製刳物容器など集落経営上必要な道具類が出土している。また、17層下底面を中心に水洗選別を実施したところ、堅果類植物遺体片を多く採取することができた。これらの考古遺物や植物遺体には殆ど磨滅が認められないことから、近接する微高地上に存在した集落から廃棄・移動した資料と考えられる。

・SR2001 上層下位 本層準は、中層堆積完了後に凹地となった箇所へ漸移的に堆積した自然堆積層であり、灰色系の粘土～シルトを主体とし、東側の6・7・9～12層を中心にやや大きな炭化物塊を葉理状に含む。考古資料の包含は極僅かであり、縄文時代晩期後葉～末とみられる突帯文土器の小片を採取したに過ぎない。5層とするシルト質粘土は層内に細砂による平行ラミナが発達してみられ、下位の6～12層と様相が異なる。層相から、周辺の旧河道からの越流堆積物と考えられる。5層からの考古資料には、縄文時代晩期末葉と見られる少量の深鉢片の他に弥生時代前期初頭の底部片がある。縄文時代晩期中葉までに形成された凹地が晩期後葉から末葉にかけて乾燥・滞水を繰り返しながら埋没していき、弥生時代前期初頭に完了したと考えられる。

・SR2001 上層水田 SR2001 上層上位には擾乱が著しい3枚の層準がみられ、これらを上・中・下層水

田と呼称する。これらの水田耕土の層界には自然堆積層を介在しない状況がみられたため、調査では疑似畦畔の検出を行い耕地の空間利用の把握を行った。また、上層水田については、耕土中に古代末～中世前期の遺物、中・下層水田については弥生時代前期の遺物を含むが、調査期間との関係から平面調査を断念し、中・下層水田の調査のみ行った。

中・下層水田 4層とする灰黄色シルト質粘土は、層内に微細な塊状の構造や下面の凹凸などから、人的な擾乱を受けた層準であると捉えられ、下層水田と呼称する。下位の5層を母材とし細砂を多く含む点が特徴的であり、分布範囲は5層の堆積範囲内に納まるとともに、後述する中層水田耕土とも一致し、下面において疑似畦畔を確認している。

中層水田 3層とする暗灰色シルト質粘土は、下層水田耕土と同様に層内に微細な塊状の構造をもつことから水田耕土として把握した層準であり、下面で疑似畦畔を検出している。下層水田耕土との差異は細砂の混入度を目安として区分したが、層界は明瞭ではない。

中層水田耕土の分布範囲や疑似畦畔による水田区画検出範囲が下層水田耕土とした4層の分布範囲や疑似畦畔による水田区画検出範囲に重複すること、加えて、細砂の混入が認められる以外は下・中層水田耕土ともに塊状等の類似した堆積構造を示すことから、両者は水田経営における畦畔・水田区画の変更等に伴い形成された一連の耕土であると考えられる。搬出した土器等の考古資料から、形成時期を弥生時代前期中葉から後葉と推定しておく。

上層水田 中層水田上位の灰白色シルト質粘土(2層)を上層水田とする。中層水田耕土上面に部分的に残存し、層厚は約10cmを留めるに過ぎないが、上面は近年の土地利用に大きく削平されているため、本来的にはより広範囲に分布していたものと推定される。搬出する考古資料より、古代末～中世前半の所産と推定され、遺跡周辺に遺存する条里型地割に伴う水田耕土と考えられる。

#### 4 まとめ

以上、SR2001の変遷をまとめると以下のとおりとなる。

1. 自然堤防の形成 (SR2001 基底層 縄文時代晩期前葉以前)
2. 沼沢地 (SR2001 下層 縄文時代晩期前葉)
3. シュートバー・自然堤防の成長 (SR2001 中層 縄文時代晩期中葉)
4. 乾燥・滞水を繰り返す凹地・旧河道越流堆積による平準化 (SR2001 上層下位 縄文時代晩期後葉～弥生時代前期初頭)
5. 水田耕作 (SR2001 上層 下・中層水田 弥生時代前期中葉～後葉)
6. 水田耕作 (SR2001 上層 上層水田 古代末～中世前半)

平成 27 年度から継続した調査において、小規模な調査範囲ではあったが縄文時代晩期から弥生時代前期にかけての環境変遷と水田形成などの土地利用形態の実態や、弥生時代前期から古墳時代前期の大型灌漑水路の検出など大きな成果を得ることができた。本報告では、これらの考古学的な所見に加え、土壌分析を加味した古環境変遷史の中への位置付けと、周辺で蓄積が進んでいる他の遺跡の調査成果との検討作業が必要となる。





写真 20 弥生時代前期～古墳時代初頭大型灌漑水路  
(東より)



写真 21 建物 2 (12世紀) 全景 (南より)



写真 22 SR2001 全景 (南より)



写真 23 SR2001 上層中層水田疑似畦畔 (南より)



写真 24 SR2001 上層下層水田疑似畦畔 (南より)



写真 25 SR2001 中層出土縄文時代晩期中葉の堅果類



写真 26 SR2001 (縄文時代晩期前葉) 完掘状況 (南より)

## ぎよくだい<sup>いせき</sup>遺跡

ぎよくだい遺跡は、三豊市豊中町比地大に位置し、平成 28 年 11 月から平成 29 年 2 月まで、地震対策ため池防災工事（宮池）に伴い、基盤改良の範囲 226㎡を対象として発掘調査を行った。

遺跡は、現在の豊中町域から七宝山に向かって上がる丘陵地に位置しており、丘陵帯には近世以降に作られたため池や畑地が展開しているほか、遺跡の近辺には熊岡八幡宮や惣官寺といった、古代～中世にかけて創建されたと考えられる寺社が立地している。

今回の調査では、慶和 3 年（1650 年）に築かれた宮池築造以前の地形状況と、谷埋没後に形成された遺構を確認した。

調査では表土と造成土がみられ、それより下位から遺構面が確認された。

調査区 1 からは、谷筋の落ち際が確認できた（SR1005）。現地表面の起伏にもみられるように、かつては七宝山より流れる谷筋の一つが遺跡の北側を流れていたことが想定されていたが、発掘調査でも同様の箇所を確認された。埋土は黒褐色の粘質土で構成されており、検出面から 0.6m の深度を測る。SR1005 の埋没土からは、土師質土器、青磁といった遺物がみられ、最も新しい土師質土器の年代から、中世後半以降に埋没していったものと考えられる。最下層の砂質土からは、前代の混入であるが、古代の瓦片が出土している。

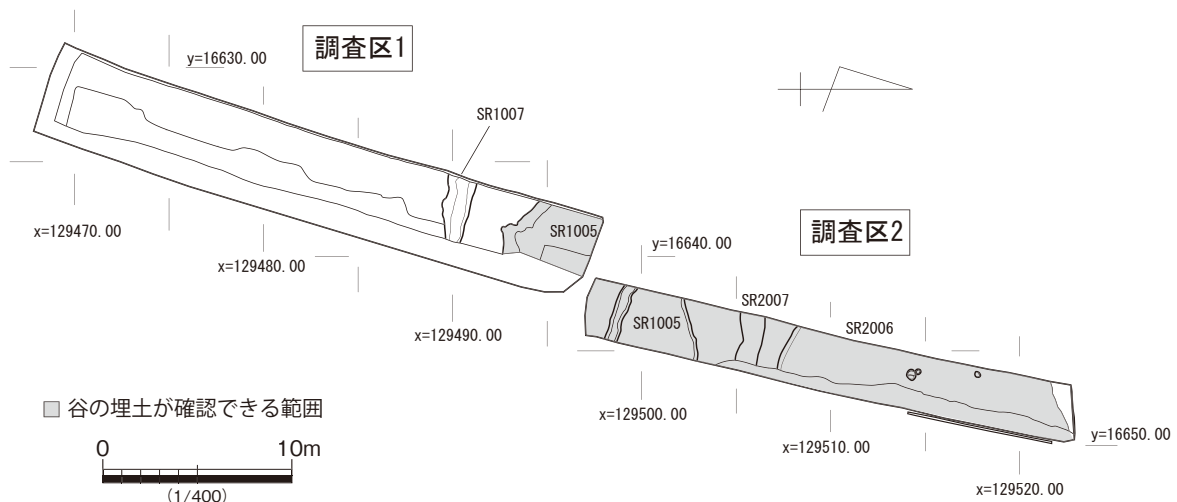
調査区 2 からは、谷の続きが確認されている。底面付近で起伏を繰り返しており、それぞれ別の遺構として取り扱ったが、各々の切り合いは不明である。最終的には、調査区の北側で緩やかに地形は上がっていく。

また、調査区 2 では、谷の埋没後に形成された遺構として柱穴が 3 基確認されている。遺物は確認さ



第 20 図 遺跡位置図（1 / 25,000）

（国土地理院 1 / 25,000 地形図「観音寺」の一部を加工して利用）



第 21 図 調査区平面図



れていないが、宮池築造以前のものであるため中世後半～近世の遺構と考えられる。

なお、ぎょくだい遺跡の隣接地についても、工事に伴い掘削が及ぶため試掘及び立会を行ったが、遺構・遺物の存在は確認されなかった。

ぎょくだい遺跡は、古代～中世の寺院跡に関連する遺跡と考えられてきたが、今回の調査成果でそれらに関連する可能性があるものは、谷の埋土から出土した瓦片のみである。地形の状況から寺院に関連する施設は遺跡の範囲の中でも、調査地より南方の可能性が高い。

今後は、調査成果も踏まえ、地形復元やそのほかの資料も合わせ、複合的な視点から比地大地域における近世以前の景観復元が行われることが期待される。



写真 27 調査区 1 完掘状況（南から）



写真 28 SR1005 土師質土器検出状況

## 2 普及・啓発事業

### (1) 展示

#### ① 香川県埋蔵文化財センターでの展示

タイトル	場所	会期
遺跡・遺物からみた香川の歴史	第1展示室	4月1日～3月31日
発掘調査速報展	第2展示室	4月20日～7月8日
第2回四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展 戦国時代の四国	第2展示室	10月12日～12月22日
讃岐国府跡を探る7	第2展示室	4月1日～5月10日
丸山窯跡と十瓶山窯跡群	第2展示室	5月16日～7月8日
子どもミュージアム むかしのひとの塩作り	第2展示室	7月13日～10月4日
讃岐国府跡を探る8	第2展示室	1月4日～3月31日

第9表 展示一覧

一般			団体										合計
大人	子ども	計	団体数					構成員数					
			一般	高校生	小・中学生	幼稚園	計	一般	高校生	小・中学生	幼稚園	計	
1,189	156	1,345	18	0	7	0	25	383	0	338	0	721	2,066

第10表 入館者数一覧

単位：人

#### ② 香川県埋蔵文化財センター以外の施設での展示

タイトル	場所	会期	観覧者数(人)
讃岐国府跡を探る7	高松市讃岐国分寺跡資料館	5月18日～7月3日	514
讃岐国府跡を探る7	三豊市宗吉かわらの里展示館	7月9日～7月31日	531
讃岐国府跡を探る7	三木町池戸公民館	9月9日～30日	139
讃岐国府跡を探る7	府中湖カヌー研修センター	10月2日	7,000
讃岐国府跡を探る7	坂出市郷土資料館	10月28日～11月27日	72
丸山窯跡と十瓶山窯跡群	三豊市宗吉かわらの里展示館	11月1日～30日	692
川添文化祭「東山崎・水田遺跡」発掘写真展	高松市立川添小学校	11月5日～6日	600
仲戸東遺跡と埴輪	東かがわ市歴史民俗資料館	11月12日～12月18日	55
讃岐国府跡を探る7	綾川町立生涯学習センター	1月24日～2月26日	1,100
第2回四国地区埋蔵文化財センター 発掘へんろ展 戦国時代の四国	松山市考古館	4月23日～7月10日	4,355
	高知県埋蔵文化財センター	7月18日～9月30日	2,211
	徳島県立埋蔵文化財総合センター	1月10日～3月19日	2,748
合計			20,017

第11表 センター外展示一覧

### (2) 現地説明会・地元説明会

	内容	実施日	対象	見学者数(人)
1	中又北遺跡地元説明会	5月14日	一般	45
2	岸の上遺跡現地説明会	10月9日	一般	120
3	丸亀城跡(大手町地区)現地説明会	10月15日	一般	80
4	讃岐国府跡現地説明会	2月11日	一般	260
5	讃岐国府跡第34次調査地発掘調査報告会	3月5日	一般	150
合計				655

第12表 現地説明会・地元説明会一覧

### (3) 講師の派遣

#### ① 体験講座など

	依頼者	実施日	場所	内容	対象	人数(人)
1	むきばんだまつり	9月22日	鳥取県立むきばんだ史跡公園	アンギン編み	一般	36
合計						36

第13表 体験講座への講師派遣一覧



## ② その他

	依頼者	実施日	内容
1	香川県高等学校教育研究会地歴公民部会	5月12日	講演
2	高松市讃岐国分寺跡資料館友の会	6月4日	講演
3	屋島コミュニティセンター	6月23日	講演
4	香川歴史学会	7月23日	講演
5	放送大学香川学習センター	9月4日	講演
6	屋島文化協会	9月14日	講演
7	府中湖水のフェスティバル実行委員会	10月1日	史跡案内
8	坂出市府中老人クラブ連合会	11月10日	講演
9	坂出市史編さん所	12月17日	講演
10	総合型地域スポーツクラブ みんなでスポーツ坂出	2月4日	史跡案内
11	高松市老人クラブ連合会	2月10日	講演
12	綾川町教育委員会	2月12日	展示解説
13	大野校区コミュニティ協議会・大野コミュニティセンター	2月19日	講演
14	蓬萊歴史研究会	2月21日	講演
15	公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター	3月12日	講演
16	坂出シニアライオンズクラブ	3月28日	講演

第14表 講演等への講師派遣一覧

## (4) 子どもミュージアム

7月13日～10月4日に子どもミュージアムを行った。

実施日	タイトル	内容	人数(人)
7月13日～10月4日	むかしのひとの塩作り	展示	404
7月21日～8月19日	遺跡の自由研究サポートデスク	自由研究のアドバイス	3
7月21日・26日・28日	古代をたいけんしてみよう。	土器作り、編みかご作り、糸作り、塩作りと遺跡探検	56
合 計			463

第15表 子どもミュージアム実施事業一覧

## (5) 発掘体験講座

9月17日に発掘体験講座を行った。

実施日	タイトル	内容	人数(人)
9月17日	掘ってみよう むかしの丸亀城下町	発掘体験講座	10
合 計			10

第16表 発掘体験講座

## (6) 考古学講座

専門職員が講師を務める考古学講座を4回開催した。

回	実施日	タイトル	講師	人数(人)
1	7月2日	丸山窯跡について	森下英治	32
2	9月3日	東日本大震災復興に係る発掘調査	木下晴一	15
3	11月5日	香川県の中世城館～讃岐武士の足跡をたずねて～	古野徳久	41
4	1月14日	古墳時代における瀬戸内の塩作り	大山裕矢	37
合 計				125

第17表 考古学講座一覧

## (7) 文化ボランティア活動

文化ボランティアは、事業の記録撮影や普及事業の補助などを行った。8名が登録し、8回、延べ18名が活動に参加した。

**(8) 新聞記事掲載**

四国新聞に「古からのメッセージ第 14 部・さぬき考古学講座」として、計 50 回の連載を行った。讃岐国府跡探索事業に関連した内容「讃岐国府の調査から」(9 回)、埋蔵文化財センターが平成 27 年度に発掘または報告書を刊行した遺跡を紹介する「埋文調査レポート」(21 回)、「第 2 回四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展」の内容を紹介する「発掘へんろ展から」(20 回)で構成した。

**(9) 資料の貸出・利用**

区分	学校・大学	研究会・同好会	教育委員会・博物館・その他公共団体	出版社・新聞社・その他民間企業	個人・他	合計
遺物	5	0	17	0	19	41
写真・パネル	0	0	9	5	3	17
レプリカ・模型	0	0	0	0	0	0
合計	5	0	26	5	22	58

第 18 表 資料貸出・利用一覧 (数字は件数)

**(10) 職場体験学習・インターンシップ**

	学校名	期間	内容	人数 (人)
1	香川県庁インターンシップ	8 月 18 日	職場体験	3
2	香川県立飯山高等学校	8 月 22 日～24 日	職場体験	1
2	高松市立香東中学校	9 月 5 日～9 日	職場体験	3
3	坂出市立白峰中学校	10 月 19 日～21 日	職場体験	3
4	坂出市立綾歌中学校	11 月 8 日～9 日	職場体験	2
	合 計			12

第 19 表 職場体験学習・インターンシップ一覧

**(11) 刊行物**

- (1) 『香川県埋蔵文化財センター年報 平成 27 年度』
- (2) 『いにしへの讃岐』90 号～93 号

**(12) ホームページ**

ホームページ (<http://www.pref.kagawa.lg.jp/maibun/>) の更新を随時行った。

トップページビュー数 24,779

**(13) 資料の寄贈**

- 井上勝之所蔵資料 蔵骨器一式 6 点 (平成 28 年 3 月)
- 徳安正道所蔵資料 石器・土器及び関連資料 2,138 点 (平成 29 年 3 月)

### 3 讃岐国府跡探索事業

「香川県文化芸術文化振興計画」に基づき平成 21 年度から開始した讃岐国府跡探索事業は、平成 28 年度で 8 年目を迎える。主な調査事業としては讃岐国府跡の遺構内容の確認を目的とした発掘調査を実施した。讃岐国府跡を活用した情報発信による主な広報活動事業は、まち歩きや講座を開催した。

讃岐国府跡の発掘調査は開法寺跡東側における建物の配置状況を明らかにすることなどに主眼に置いた。調査の結果、広い範囲における建物の配置状況が明らかになり、区画施設内の建物は複数の建物の端を直線的なラインで揃えるなど、基準線といった基軸となるものに基づいて、企画的に配置されていたことがわかった。

#### (1) ボランティア活動

- ・登録人数 22 人
- ・延べ人数 242 人

#### (2) 地域との交流

内容	実施日	参加人数
「第 18 回 水のフェスティバル in 府中湖」道真の里を歩く	10 月 1 日	89 人
「第 18 回 水のフェスティバル in 府中湖」展示 讃岐国府跡を探る 7	10 月 2 日	7,000 人
讃岐国府跡現地説明会 府中町民対象	2 月 11 日	100 人

第 20 表 地域との交流一覧

#### (3) 情報発信

内容	回数
ホームページへの記事掲載	28 回
情報誌「いにしへの讃岐」への記事掲載	2 回
新聞への連載記事掲載	9 回
地元ケーブルテレビガイドブックへの記事掲載	2 回
庁内掲示板への掲載	1 回
N H K 出演	1 回
K S B 出演	1 回
K B N 出演	2 回
四国新聞掲載	1 回

第 21 表 情報発信一覧

#### (4) 関連行事

行事名	会場	実施日	参加人数
展示「讃岐国府跡を探る 7」	香川県埋蔵文化財センター	4 月 1 日～5 月 10 日	441 人
展示「讃岐国府跡を探る 8」	香川県埋蔵文化財センター	1 月 4 日～3 月 31 日	399 人
出張展示「讃岐国府跡を探る 6」	東かがわ市歴史民俗資料館	4 月 1 日～5 月 15 日	100 人
出張展示「讃岐国府跡を探る 7」	高松市讃岐国分寺跡資料館	5 月 18 日～7 月 3 日	514 人
出張展示「讃岐国府跡を探る 7」	三豊市かわらの里展示館	7 月 9 日～7 月 31 日	531 人
出張展示「讃岐国府跡を探る 7」	三木町池戸公民館	9 月 9 日～9 月 30 日	139 人
出張展示「讃岐国府跡を探る 7」	坂出市郷土資料館	10 月 28 日～11 月 27 日	72 人
出張展示「讃岐国府跡を探る 7」	綾川町立生涯学習センター	1 月 24 日～2 月 26 日	1100 人
依頼講座 香川県高等学校地歴公民部会「讃岐国府跡の発掘調査」	香川県埋蔵文化財センター	5 月 12 日	45 人

行事名	会場	実施日	参加人数
出張講座 高松市讃岐国分寺跡資料館友の会「讃岐国府の最新発掘調査成果」	高松市讃岐国分寺跡資料館	6月4日	26人
出張講座 香川歴史学会「讃岐国府の調査について」	香川大学	7月23日	40人
出張講座 放送大学香川学習センター「古代国家誕生までのあゆみ～讃岐国誕生プロセス～」	坂出市民ふれあい会館	9月4日	80人
発掘現場見学 大阪大学文学部考古学研究室	讃岐国府跡発掘調査地	11月2日	26人
発掘現場見学「丸亀市民学級さぬきの歴史を学ぼう」	讃岐国府跡発掘調査地	11月28日	40人
発掘現場見学 高松大学	讃岐国府跡発掘調査地	1月23日	23人
発掘現場見学 総合型地域スポーツクラブみんなでスポーツ坂出「早春の里山ハイキング」	讃岐国府跡発掘調査地	2月4日	25人
発掘調査現地説明会(県民対象)	讃岐国府跡発掘調査地	2月11日	160人
シンポジウム「讃岐国府を語る 讃岐国府跡第34次調査地 平成28年度開法寺跡調査地報告会」	坂出市民ふれあい会館	3月5日	150人
出張講座 坂出シニアライオンズクラブ「讃岐国府跡の調査」	坂出グランドホテル	3月28日	39人

第 22 表 関連行事一覧



## Ⅲ 讃岐国府跡第 34 次調査成果の概要

遺跡名	讃岐国府跡
調査主体	香川県教育委員会
調査担当	香川県埋蔵文化財センター
調査期間	平成 28 年 9 月 1 日～平成 29 年 3 月 17 日
調査面積	789㎡ (34-1 ～ 3 区)
出土遺物	土器・瓦・金属器 (銅鋳・不明銅製品 (龍頭)) 等 コンテナ数 199 箱

### 1 調査成果の概要

平成 28 年度は過年度調査区と一部重複させた位置に、過去最大面積の調査区を設定した。過年度調査で一部の検出に留まった建物の全体検出に努め、広範囲における建物配置の把握を目的とした。調査の結果、多数の建物を検出することができ、これまで継続的に調査を進めてきた開法寺東方地区における時期別の建物配置状況も確認することができた。

### 2 各時代の調査成果

以下、調査成果を踏まえ、開法寺東方地区における時期別の遺構変遷についてまとめる。

**7 世紀中葉 (第 1 期)** 竪穴建物に加え、重複関係からそれに先行する道路遺構も検出した。竪穴建物は開法寺東方地区の西半部に分布し、同一地点で重複した状態を示す。開法寺東方地区の検出総数は二十数棟を数える。道路遺構は 2 条平行溝と波板状遺構からなり、溝間の距離は約 3.5 m を測る。条里や正方位とは異なる方位で直線的に伸び、検出総延長は 45 m を上回る。

**7 世紀後半～8 世紀初頭 (第 2 期)** 過年度調査で真北を基準とした建物群や溝を確認していたが (「正方位建物群」)、今年度の調査で真北からわずかに振れた建物群を 3 棟検出した (「正方位主軸基調の建物群」)。3 棟は L 字形の建物配置を呈し、正方位建物群と同様に、官衙的な建物配置と理解できる。主軸方位の差異は帰属時期のわずかな差を反映する可能性が高い。

**8 世紀前葉～中葉 (第 3 期)** 条里地割に合致した方位の建物群が出現する。小形ないし中形建物が分布するが、建物配置の規則性は見出し難い。铸造関連遺構と考えられる多量のスサ混じりの焼土塊や炭化物、ふいごの羽口、埴塼、鉄滓などを包含する大形土坑もある。当該期には国府は造営されていたと考えられるが、第 3 期の建物群や铸造関連遺構の性格は判然としない。

**8 世紀後葉～9 世紀中葉 (第 4- 1 期)** 一辺 80 m 前後と推される区画施設が出現し (遮蔽施設は一本柱塀構造)、区画内に規則的な配置をとる建物群が展開する。建物分布は 3 つのブロックに分かれ、北東付近の B・C ブロックの建物は L 字形配置となる。A ブロックには南面廂の超大形建物 (床面積約 100㎡)、B ブロックには東西主軸建物の南北 2 棟並置 (床面積約 45㎡、約 25㎡)、C ブロックには南北主軸の大形建物 (床面積約 76㎡) が建てられる。

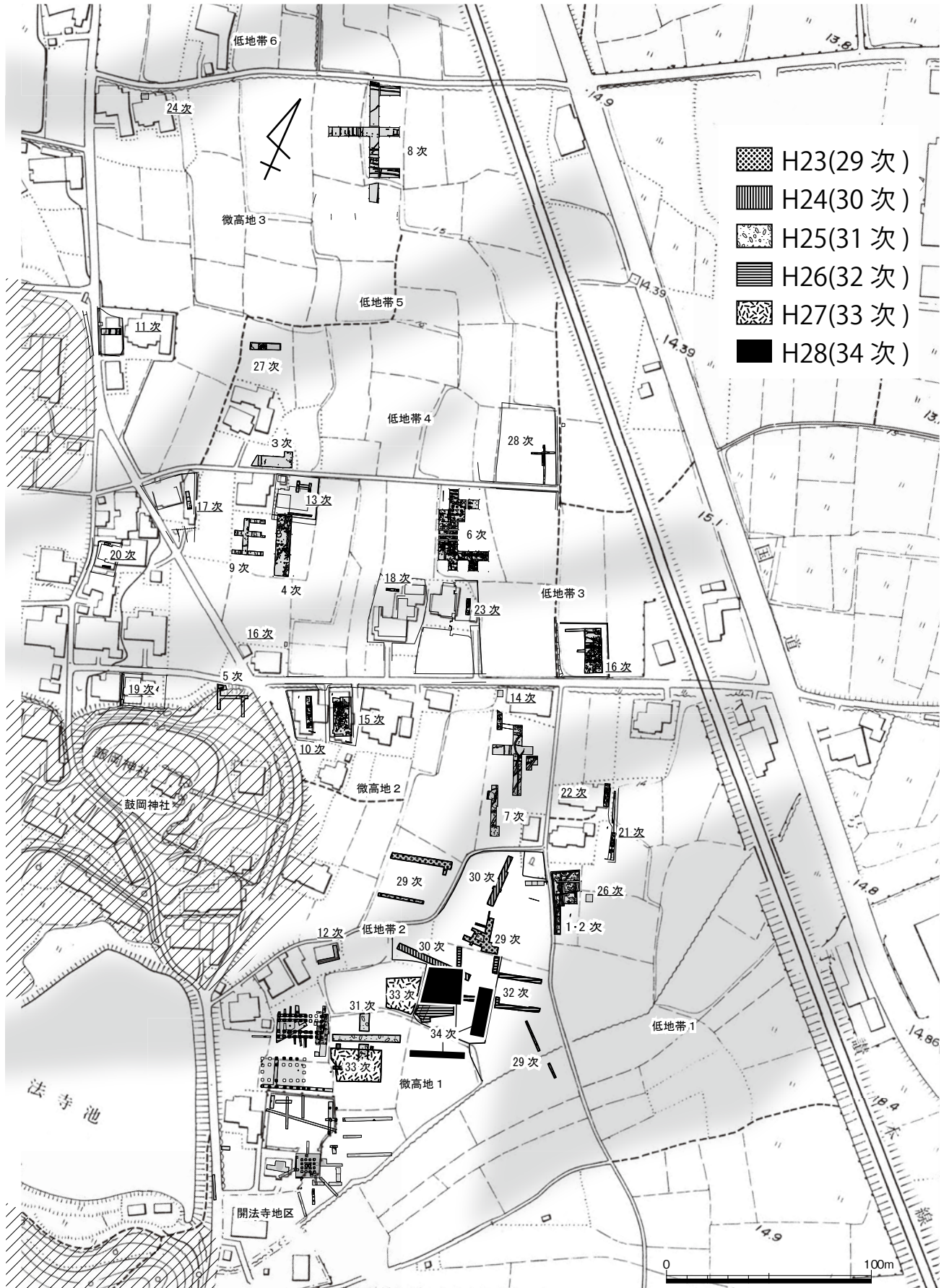
**9 世紀後葉～10 世紀初頭 (第 4- 2 期)** 遮蔽構造は溝に変化するが、前代の区画施設や区画内の建物

配置は踏襲される。建物は前代とほぼ同地点にあり（A～Cブロック）、B・CブロックのL字形配置も継続する。Aブロックには両面廂の超大形建物（床面積約140㎡）、Bブロックには東西主軸建物の大形建物の南北2棟並置（床面積約80㎡、約93㎡）、Cブロックには南北主軸の大形建物（床面積約50㎡）が配される。Bブロックの建物は3×7間で間仕切りを有する大形建物と2×7間で土廂付きの建物であり、前代に比して建物規模や数が充実する。

**10世紀前葉～11世紀前葉（第4-3期）** 区画施設は継続し、建物配置もほぼ前代と同地点において同構造の建物が建て替えられる。Aブロックには四面廂の超大形建物（床面積約120㎡）、Bブロックには東西主軸の大形建物の南北2棟並置（床面積約80㎡、約60㎡）、Cブロックには南北主軸の中形建物（床面積約38㎡）が建てられる。当該期直前ないし当初に大規模な火災を受けたと考えられ、10世紀前葉の土器や瓦を含む大形廃棄土坑が建物周縁に開削される。当該期の建物群は火災後に再建されており、火災後の早期の機能維持と理解できる。前代とほぼ同一地点で、同規模・同構造の建物を建て直しており、本施設の重要性を示唆する。

また、第2～4期は多くの官衙系遺物が出土する。硯では円面硯、風字硯、猿面硯、長方硯、転用硯を認め、転用硯の出現頻度が極めて高く、円面硯は大型品となる。灰釉・緑釉陶器は生産地を網羅する。瓦では緑釉瓦・施釉瓦を認め、国府独特の型式の瓦に加え、国分寺跡の同范平瓦（SKM01B）、国分尼寺跡の同范丸瓦（SKB101）も認める。その他の官衙特有の遺物では、墨書土器数点（「官」・「見」ほか）、ミニチュア土器（カマド、三足釜）などを認める。土器では搬入土器の多さが目立ち、畿内系の土器（畿内系土師器、京都産土師器）、異形黒色土器（東北系か）、胎土の異なる焼塩土器などを認める。さらに、奈良三彩（坏・蓋）、褐釉陶器、銅鋳、金銅製龍頭、獣脚（火舎の脚か）等、讃岐国内では出土が極めて限られる特異な遺物も出土する。国産施釉陶器や硯、瓦の出土量は讃岐国内の集落や官衙関連遺跡と比較すると、極めて高い出現頻度を示し、国府としての性格、さらには当エリアの重要性を反映する。

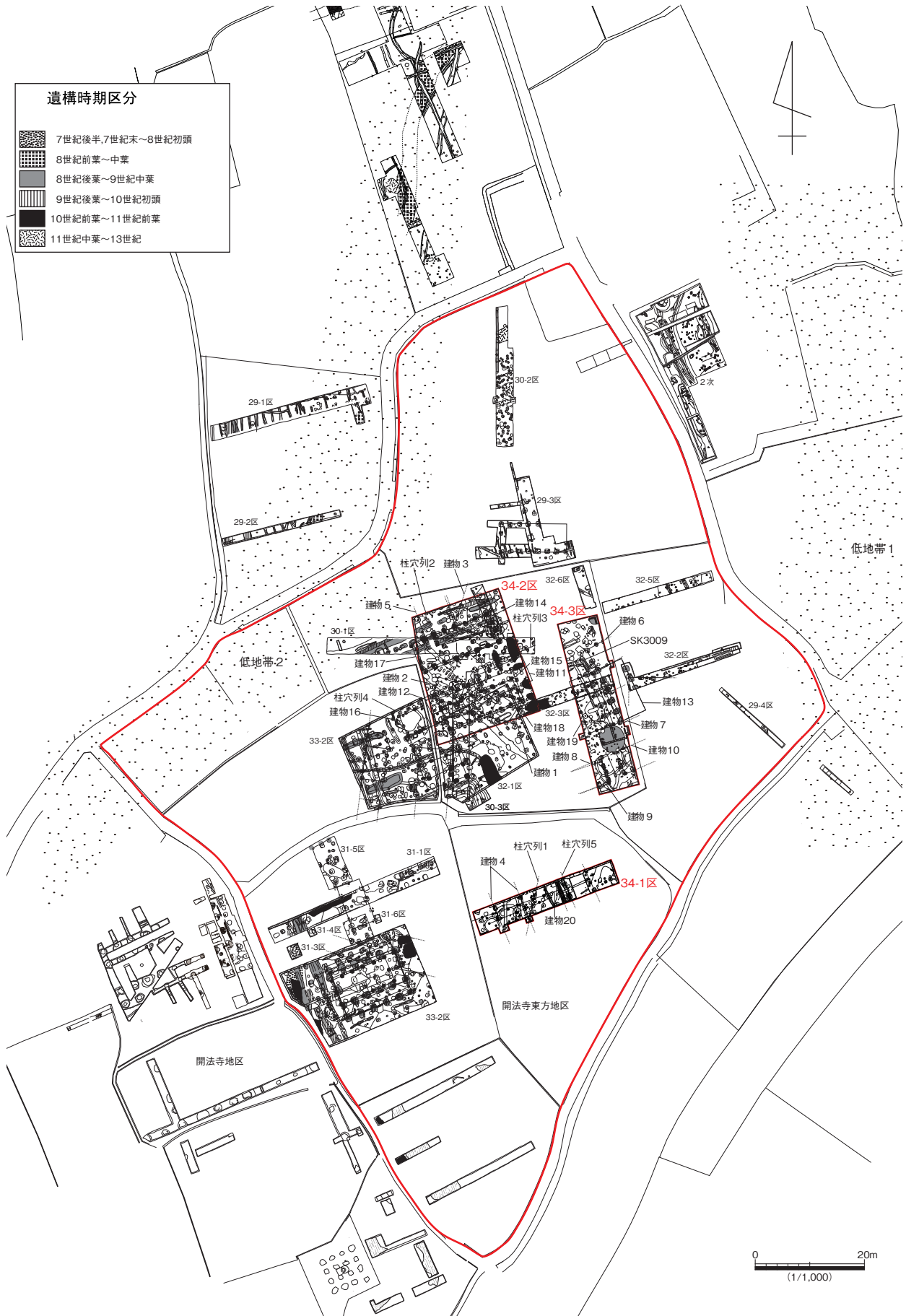
**11世紀中葉～13世紀（第5期）** 前代までの区画施設やL字形の建物配置は姿を消し、径20cm前後の平面円形の小規模な柱穴群が一定範囲に集中するようになる。柱穴等の分布状況から一辺40m程度の屋敷地が復元でき、その一角には井戸も認める。屋敷地は国府西半全域に展開し、その数は10を超える。中国産輸入磁器を多く保有し、灯明具の使用が目立つ等、県下の一般的な集落や流通中継地等とは異なる様相を示す。各屋敷地単位では在地領主居館と大差はないが、出土遺物の質や量は突出した内容を示す。当該期は文献資料が示す留守所が設置された時期でもあり、これらの屋敷地的なまとまりの集合体が国衙機能を継承するならば、讃岐国府の政務を執り行った留守所の実態を反映する可能性も想定できる。



坂出市都市計画図 (1/2,500) に加筆して掲載

第22図 讃岐国府跡における既往の調査地と地形



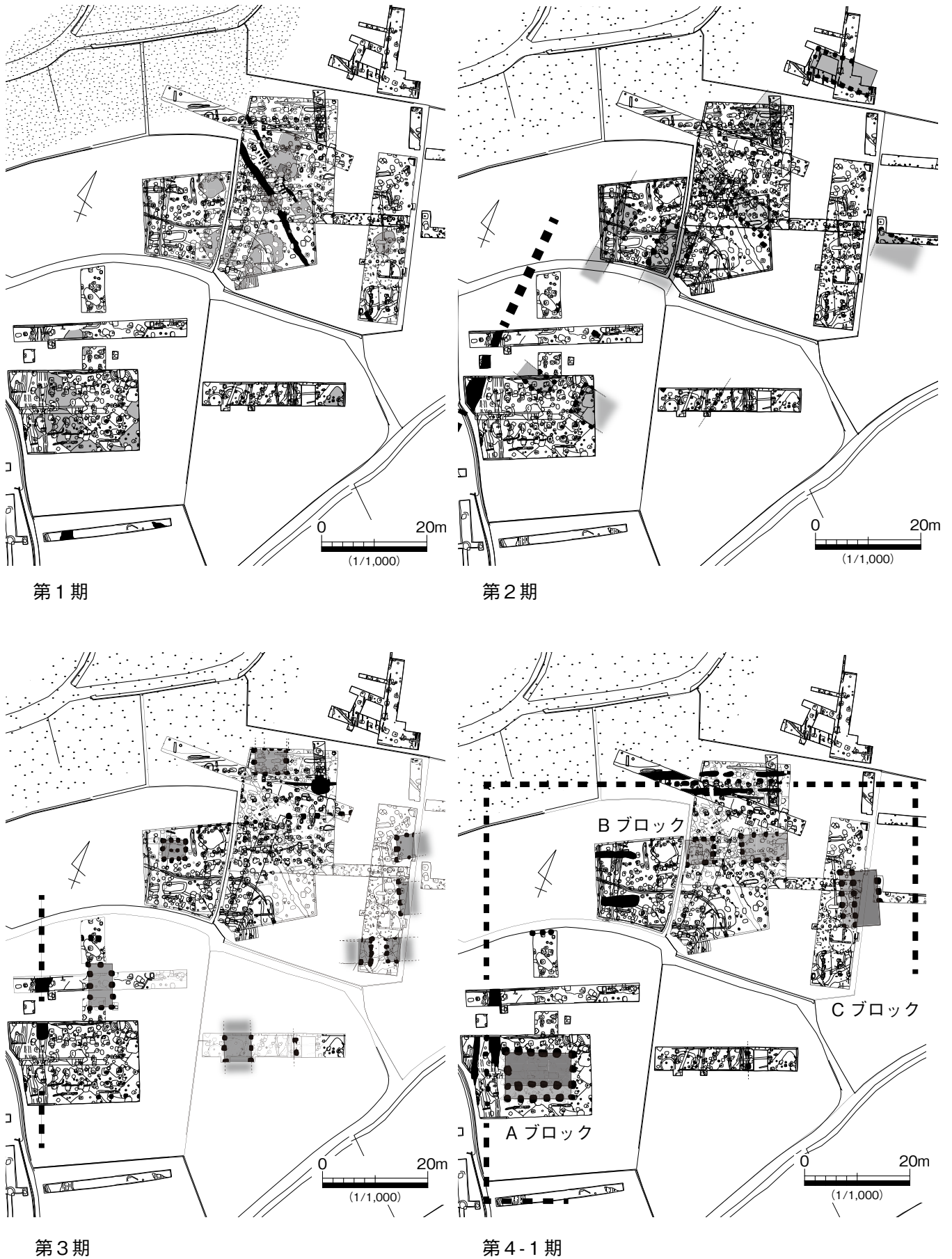


第 23 図 開法寺東方地区周辺の調査区設定状況

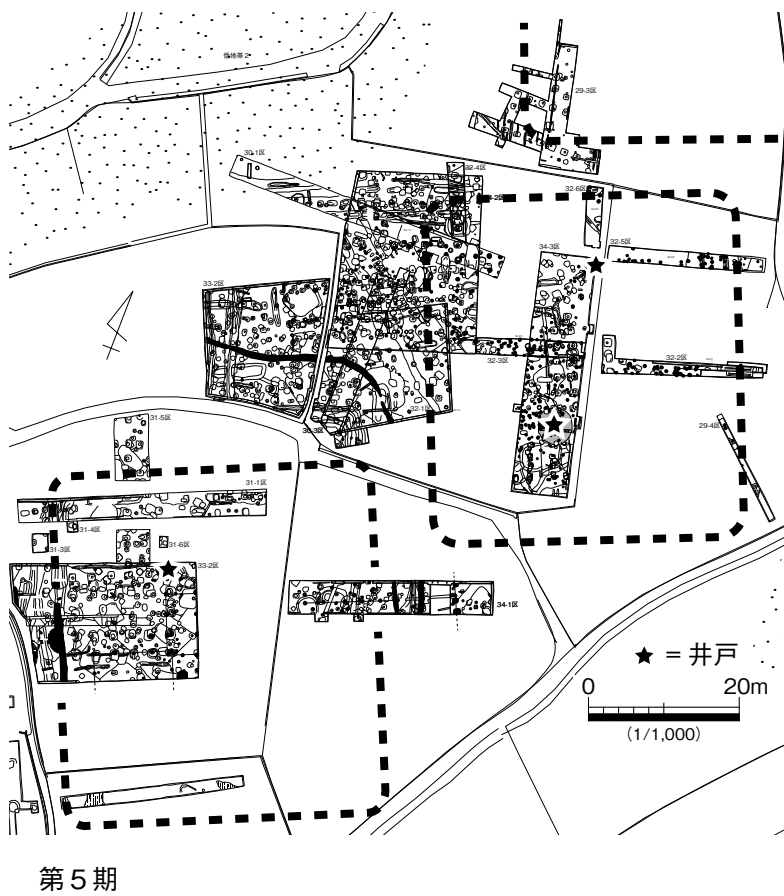
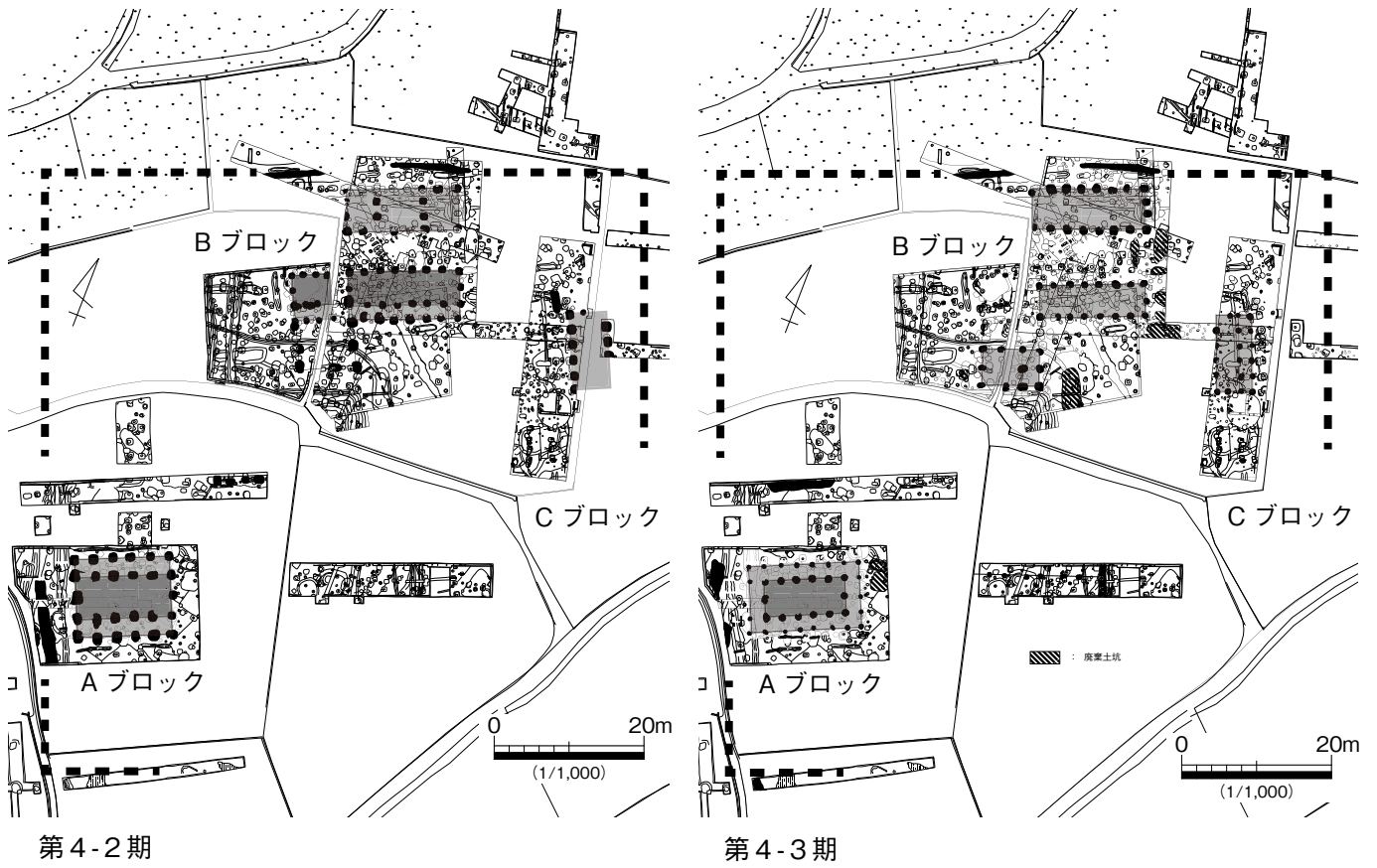




第24図 今年度調査区(第34次)遺構配置図



第25図 開法寺東方地区 遺構変遷図1



第 26 図 開法寺東方地区 遺構変遷図 2





写真 29 34-2 区北半部 東西主軸の建物と遮蔽施設（東より）



写真 30 34-3 区 南北主軸の建物（北より）